
異世界トリップっぽい

藤袴 奥継

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界トリックつぽい

【Zコード】

Z8585X

【作者名】

藤袴 奥継

【あらすじ】

なんだか、よくわからないうちに異世界に飛ばされ、迷宮にとばされ、モンスター倒したり、レベルアップしたりする話。初投稿の練習用作品です、稚拙な文章ですが暇つぶしにでも、読んでいただけたら幸いです。

1話目つぽい

俺、キサラギシロウ如月士郎は困惑していた。

「こ、こは、ど、こだ？」

確か俺は、会社で仕事して、電車で帰ってきて、家のドアを開いたんだよな…、いつから俺の家は荒野になつたんだ？

玄関開けたら、荒野にポツーン、しかも今は、夜10時のはずなのに頭上には太陽が燐々と輝いていて、なんだかわけがわからない。とりあえず、どつか人がいないか、交番がないか探そう…。

彷徨い歩く事、数時間、どうやら人のいる場所に出れたみたいだ。

俺、運がいい…と思いきや、あきらかに、日本人に見えない人々が…、町並みも日本というよりは、中世ヨーロッパといった感じ、舗装されてない土そのままの道路に、風車のついたデッカイ建物、道は馬車が行き交い、何より日本語で会話してないっぽい。

道を聞くとかできねえええ。

言葉通じねえ相手に話しかけるとかできねええええ。

俺は人見知りやつちゅうねん。

途方くれつつも、未練がましく町?の外周をフラフラ歩いていると石柱が3本程たつた、文化遺産ぽい広場に出た。

正面と左右に石柱が建っていて、その中央に魔方陣ぽいものがある。何だらうか？と、思つて近づいていつて、魔方陣の上に乗ると、

ぶうううん

と音がして、景色が変わった。

？？？

混乱しつつも、あたりを見回す、前後、左右と煉瓦で造られた壁があり、その壁に剣が数本立てかけられている、壁と剣の他には、ドアがいくつかある。

ドアはあるけど、完全に密閉された空間だ。

あの魔方陣は転移装置か何かだったのだろうか？どつかの屋内にとばされたっぽい、足元を見たが魔方陣っぽいものはない、もどねつぽい。

まあ、戻れないものはしょうがない。

とこりうか、最初の荒野にポツーンの時点でもうアウトだしなあ。

なんとなあーく、剣とか魔方陣とかがあるってことは、俺はファンタジー世界にでもやつて来たつてことなのかなあ？、とか考えてみる、よくある異世界トリップものみたいに召還されたりしたのかね？とりあえず、考えていてもしうがないので、壁に立て掛けてあつた剣を一本取り部屋を出でみた。

部屋を出てみると、外にはモンスターっぽいものがいた。

見た目はちょっと人間っぽいが、肌が緑色で顔がのっぺりしている。体全体が鱗で覆われていて、正直キモイ、頭にはちゃんと髪の毛がふさふさと生えていて、生意気にもさらさら金髪ヘアーである。

そいつがイキナリ襲い掛かってきた。

ブンッ！

と、腕を振り回してきたのだが、こいつ、動きがメッサのろい。

難なくかわし、剣で斬りつける、こっちからみて左側の腹から右上の肩口まで剣をなぎ払う。

ザクッ！

つと、体に食い込んだ剣は意外と抵抗なくモンスターの体を切り裂き、上半身と下半身がさよならして、真っ二つになったモンスターは、そのまま影がうすくなり消え去った。

モンスターが消え去った後、なんとなく、体に力が溢れたように感じた。

経験値でも手に入れたのかね？

倒したモンスターは跡形もなく消え、経験値を手に入れると…、これでお金も落としてくれば、まんまRPGなんだけどねえ。

あの後、ちらほらと見かけるモンスター剣で斬りつけつつ、フフフ
うと歩いていると

【ペロリロロロローン、シロウはレベルが上がった】

といつ、音声が頭に響いてきた、モロにRPGですな、俺は異世界
ファンタジー飛ばされたんじゃなく、ゲームの世界に入ってしまった
たのだろうか…。

それにしても、レベルってなんだ? っていうか今、何レベルだ? と
か、考えていたら、頭の中にはステータス画面が浮かびあがってきた。

| | NAME | シロウ |
|-----|------|-----|
| LV | LV | 2 |
| HP | HP | 120 |
| MP | MP | 140 |
| STR | STR | 153 |
| VIT | VIT | 161 |
| DEX | DEX | 121 |
| AGI | AGI | 161 |
| INT | INT | 121 |
| RES | RES | 130 |

LV2か…、ステータスは軒並み100を超えていいるけど高いのだ

ろうか？正直よくわからん。

まあ、これも今考へてもしようがないんだろうなあ、そのうちわかるだろ、探索を続行じやあ。

と再度探索を続けていると、前方にちょっと大きめの部屋が見えてきた。

大きめの部屋の中にはたくさんの中の緑色モンスターがいた。

さつきの奴だ…、あつ、田^たが合つた、一斉にコツチに向かってきた。

ところ動きでコツチに向かつて来る緑色モンスター、そして出入口に引っ掛けた。

まあ、人ひとり通れるくらいの幅しかないから一斉に向かつて来るしそうなるよね。

とりあえず、こいつらは動きが遅いだけでなく知能も低い事が判明した。

たぶん、カラスとか犬よりバカなんだろうなあ。

とりあえず出入口で引っ掛けた奴らを斬り倒し、部屋の中へと踊りに入る。

囮まれて圧殺されるとヤバそうだが、こいつら動きがどろいし、頭も悪いから連携なんてしないだろうし、そうそう囮まれたりしないだろう。

斬る 切る KEL とブンブン剣をぶん回しモンスターを雑ざ払う、数十体ほどモンスターを屠ると

【ペロリロリロローン、シロウはレベルが上がった】

という、音声が頭に響いてきた、本日2度目のレベルアップですな、ステータスは…、

| NAME | シロウ |
|------|-----|
| LV | 3 |
| HP | 121 |
| MP | 140 |
| STR | 154 |
| ST | 121 |
| VIT | 162 |
| DEX | 122 |
| AGI | 163 |
| INT | 171 |
| RES | 131 |

ほとんど上がっていないなあ、まあ、いいか…。

剣をもう一振りして、最後のモンスターを倒す、他のモンスター同様消えたと思ったら、なんか落ちてる。

ドロップアイテムって奴か。

落としたものは、何だか茶色くて丸っこい物体だった、というかパンに見える。

ちっさい、フランスパンといった感じだ。

グウーーーー

腹が鳴った。

そういうえば毎から何も食つてなかつたなあ、腕時計を見ると3時を指し示している。

午前3時、腹も減るつてもんです。

とりあえず、パンを食つてみる、固い、そして、まずい、だが、腹

は満たされた。

腹が満たされたら、眠くなつてきた。

考えてみたら、今日はハッスルしまくつてた事になるからなあ、体
が睡眠を求めてるぜ。

だが、此処で寝るとわつきのモンスターに襲われそうだ。
最初の部屋に戻つて、寝ることにしよう、ドアがついていたし何と
かなるだろ。

最初の部屋に戻つてきた。

ドアノブに手をかけてクルリと回し、手前に引いてドアを開ける。
部屋に入った後にパタンッ とドアを閉める、ついでに鍵がついて
いたので力チャヤツと回して鍵も閉める、このドア、家の玄関のドア
とつくりが同じだなあ……、ファンタジーぽくない。

とりあえず、あの緑色モンスターに鍵開けのスキルがあるとは思え
ないし、オーク材？の頑丈そうなドアだからこれで大丈夫だらう。
床に横になつて目をつむると、一気に睡魔が襲つてきた。

おやすみなさい。

（後書き）三つ並んで

正修、じゅうしゅう

蛇口、田を覚ます。

一瞬どこにいるのかわからなかつたが、煉瓦の壁を見て自分が何処にいるのか思い出す。

夢じやなかつたんだなー。

のどが渴いたので、コップを持って蛇口をひねつて水を出す、そしてコップいっぱいに注がれた水を飲み干す、「ゴクゴク、うまい。」

：

蛇口？

よく考えると、蛇口から水が出るって、変だよな？
とつあえず部屋を探つてみる。

壁が煉瓦で出来ていて、普通のマンションルームって感じだつた。

今、俺がいるところは玄関兼キッチンといった感じだ、剣が立て掛けられていたのも玄関部分だな。

奥にもう一部屋あつて、ベッドが備え付けられている、他には風呂とトイレがあつた。

しかも、トイレは水洗、水はどうから来ているのだろうか？
風呂も蛇口をひねるとお湯が出る、シャワーもついてる、いたれり

つくれりだな。

さうにキッキンである此処には、流し台とガスコンロ、なべとフライパン、ナイフやコップに皿もある、調味料の類は置いてなかつたが。

とりあえず、いい拠点がゲットできたところで、食い扶持を稼ぎにいきますか！

ガチャ！

つと、ドアを開けると田の前に縁の物体が…

びっくりして、一歩引いて部屋に戻る、と、縁モンスターは何事もなく通り過ぎていった。

どうも、部屋の中に入ると俺のことを認識できなくなる、といふか、この部屋自体を認識できていなければ。

これは、実験してみる価値があるな。

ドアを開けて適当につつかえになる物を置いて、ドアを開け放しにしておく、んで、縁モンスターを部屋の前まで誘導してきて、サツ、と部屋に入る。

すると、俺が部屋に入った、とたん標的である俺の事を見失つたのか、フランフランとそのままどつかにいつてしまつた。

ドアは開け放しで視線は通つてるので、見えなくなつたから見え失つたという事は100%ありえない、部屋にはモンスターを寄せ付けない結界もあるのだろうか？

何にせよ便利な事には間違ひない、深く考えたら負けな気がするので、当初の予定通りにモンスターぬつ殺して食料ゲットするために出かけますか！

今日も緑色モンスターをボコにする、剣でザクザクと簡単に倒せる、そして、50匹に1匹くらいの割合で食い物をとす。

パン2個としなびた野菜、カツチカチのチーズに塩をゲットし、4に上がったし、腹も減ったし、部屋に帰つて飯にする事にする。

NAME シロウ

| | |
|-------|-------|
| L V | 4 |
| H P | 1 2 3 |
| M P | 1 4 3 |
| S T | 1 2 4 |
| S T R | 1 5 6 |
| V I T | 1 6 3 |
| D E X | 1 2 4 |
| A G I | 1 6 6 |
| I N T | 1 7 4 |
| R E S | 1 3 2 |

部屋に帰つてきた。

とりあえず、めしだめし、パンに軽く水を含ませしめらせる、その後に軽く火であぶる。

チーズもあぶつて切れ目を入れたパンにぶつこむ、ついでに野菜もぶつこんで簡易ハンバーガーの出来上がりだ。

水を含ませ、軽くあぶつたおかげでパンは若干やわらかくなつてあり、チーズの塩気と混ざつて、そこそこおいしく食えた。

もう一個のパンは、とりあえず置いておく。

俺の着ているサラリーマンスーツ（間接部はストレッチ素材でウオツシャブル機能つき9万5千円）は意外と収納力があるが、服をパンパンにさせた状態で戦闘したくはないしな。

腹も膨れだし、もつかい緑モンスター狩りじゃー！

：

ザックザック、グシャー ザックザック、グシャー

延々と緑モンスターを倒していく。

ボグシャー ボグシャー ボグシャー endless

…飽きてきたので、帰る事にする。

今日の戦果は、パン8個、チーズ6個、萎びた野菜5個、塩少々、干し肉1切れ、んでLVが5になつた。

NAME シロウ

| | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| INT | 175 | DEX | 126 | VIT | 165 | STR | 158 |
| AGI | 169 | | | LV | 5 | HP | 124 |
| | | | | | | MP | 146 |

今日はもう風呂に入つて、簡易バーガー食つて寝るか[…]。

翌日…、いにじに来てからも「うひ田だな、とつあえず腹いりしりへして、今日も狩りに行くか…。

緑の奴らを倒しながら「こらをウロウロする。

適当に歩いていると、ちょっと雰囲気の違つ部屋に立った。

部屋の中央には緑の奴と同じ見た目で体色が赤くなつた奴がいる、色違いだしボスモンスターだらうか？
警戒しながらも近づいていく、緑狩りはもう飽きたんじゃあー！もつと歯ごたえのある奴来ーい！

ある程度近づくと赤い奴が襲い掛かつってきた。

が…、

こいつも、とろい、緑の奴より若干速い氣もするが相手にならん。

ヒヨイッ

と攻撃をかわし、サクサクと剣で斬る、袈裟懸けに斬りつけると一撃で死んだ。

「赤い奴弱つ！ボスじやねえのかよー。」

赤い奴は、緑の奴同様霞となつて消えていった。
すると、ピコーンと音がしたかと思つと

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスでレアアイテムと能力が与えられます。レアアイテムから授与します、次の中から欲しいものを選んでください。】

といつ、音声が頭の中に響いてきた。

そして、目の前に3つのアイテムが置かれていた。

1つ目、剣、金色でピカピカ輝いている、かつていい、勇者とかがもつてたつ。

2つ目、革製のミニーバッグ？腰につけるタイプのものっぽい、かわいい。

3つ目、ビン、栄養ドリンクのビンにそっくり。

…どれがいいのかわからん、適当でいいか、とりあえずなんか心惹かれたミニーバッグをゲットする。

と、手をつけなかつた剣と栄養ドリンクのビンが霞となつて消えてしまつた。

選ばなかつたものは消えるのか…、それよりバックじや、革製ミニーバッグを腰につける、ふむ、いい感じだ。

バックを付け終わると、また頭の中に音声が響いた。

【次のなかから、欲しい能力を選んでください】

【戦士の才能】

【解析】

【ドロップ率】

ふむ、この3つの内のどれかが得られるのか、まず1つ目はいらんな、モンスター簡単に倒せるし、二つ目はひかれるものがあるがどうせ良いアイテムは手に入らないだろうし、とすれば2つ目かな？解析つて事はアイテムの効力とか、わかりそうだな、それに、なにより優先すべきものは情報だろう、せっかく手に入れたアイテムも使い道がわからないと、意味ないし、よし、これに決めた、手に入れる能力を決めたことを意識するとまた音声が頭の中に響いた。

【ピロリン、シロウは【解析】の能力を手に入れた。】

能力を手に入れ終わると、目の前に微妙に光る魔方陣がでてきた。これに乗れば次の階層に進めるという事だろう。先に進む前に、ミニバッグの能力が気になるから解析を使ってみよう。

ジーッと、ミニバッグを見る、これで使い方はあってると、思つ…、しばらく見つめると情報が頭に浮かんで来た。

【【無限のポーチ】いくらでも、無限に物が入る、入ったものは畳空間に保存され劣化しない】

おおつ、これは便利なものを手に入れたぞ、ようはドラちゃんのポケットみたいなものか、今まで持ちきれなくて放置していたものをコイツに入れられるし、なにより劣化しないっていうのは大きいなあ。

ためしにポケットにあつた、パンを入れてみる。

明らかにパンの方が、ポーチの口より大きいが、入るような気がす

る。

パンをポーチの入り口に近づけていくと、グニヨーンと入り口が延びてパンがスッと吸い込まれた。

取り出すときはどうするんだろう？

手を入り口に近づけると、グニヨーンと入り口がのびて、パンがするすると出てきた。

おお！ こいつは、かなり便利だぞーあたりを引いたな！
とりあえず、持つてるアイテムを全部ポーチにぶつ込んだ。

これでよしー次の階層に進もう！

魔方陣に乗ると、一瞬、体全体が輝き、次の瞬間には別の場所にいた。

着いた場所は4畳くらいの空間で、左手にドア、前方に魔方陣があった。

この魔方陣に乗ると元の場所に戻れそうだな、乗つてみるか。
前方の魔方陣に乗ると、次の瞬間には見覚えのある場所、ゲートキーを倒した場所にでた。

もつかい、ボス部屋の転移魔方陣に乗る。
さつきの4畳間に出了。

とりあえず階層を進んでも戻れる事が判明した、安心設計だな。

次に左手のドアを開けて外に出てみる、すると一番最初いた拠点部屋と同じような場所にでた。

トイレ付き、風呂付、キッチン付きの煉瓦部屋、違うのは今出てきた転移部屋が追加されている事くらいか…。

ああ、あと調理器具の類がおいてない…、最初の部屋からもつてこないとなあ。

とこりわけで、最初の部屋から調理器具を持ってきた、【無限のポ

【チ】があるから楽だった。

それじゃあ、二つ目の階層の探索と行きますか！

毎度の「」とくふらふらと出歩く。

2階層目には緑の奴の中に、ちらほらと赤い奴が見かけられた。

ふと、思いついて解析を使ってみる。

ジーツ

緑の奴は【養殖人間】といいうらしい、こいつらが養殖だとすると、俺は天然人間になるのだろうか？

まあ、そんなことは置いといて、【解析】の能力は相手のステータスも確認できるようだ。

緑の奴のステータスは

| | | |
|---|---|-----|
| L | V | 1 |
| H | P | 100 |
| M | P | 10 |
| S | T | 10 |
| S | T | 10 |
| V | I | T |
| D | E | X |
| A | G | I |
| I | N | T |
| R | E | S |

こんな、感じだった。

固体によつて多少能力が違つが、平均するとこつなる。

んで赤い奴の方はといつと、名前は【養殖人間・亞種】でステータスは

| | |
|-------|-----|
| L V | 1 |
| H P | 120 |
| M P | 10 |
| S T | 10 |
| S T R | 120 |
| V I T | 10 |
| D E X | 10 |
| A G I | 10 |
| I N T | 10 |
| R E S | 10 |

つて感じだつた。

俺のステータスと比べるとダイブ低い、メッチャ弱い、だから楽勝だつたのか。

まあ、弱いとわかつたら遠慮はいらねえ毎度のようにザクザク行きますか！

ザック ザック ザック endless

赤い奴も何十匹と倒すとアイテムをドロップした、赤い奴のドロップアイテムはトイレットペーパーとかティッシュペーパーとか生活雑貨だつた。

今日の成果

LV5 LV7

NAME シロウ

LV7

| | | | | | |
|------|-------|-----|-------|-----|-------|
| S T | 1 3 0 | M P | 1 5 0 | H P | 1 2 8 |
| STR | 1 6 2 | | | | |
| V IT | 1 6 7 | | | | |
| D EX | 1 3 1 | | | | |
| A GI | 1 7 4 | | | | |
| I NT | 1 7 7 | | | | |
| R ES | 1 3 5 | | | | |

生活雑貨多数、食料多数ゲット。

ある程度探索と、赤い奴狩りを終えたので、今日は探索を終えて風呂に入つてめし食つて寝る事にした。

おやすみなさい。

4話まとめ（後書き）

投稿して改めてわかる、自分の文章力のなさ
精進せねば！

5. 話題まとめ（前書き）

モンスター解析時のステータスを変更しました。
思いつきで書いてるので、後から、ちょくちょく細かいところを変更したりします。

5話つぽい

今日も今日とて探索じゃあ！

と、モンスターを倒しつつ探索を続行すると、また雰囲気の違う部屋に出た、通称ボス部屋（俺命名）
中央にいるのは、青い奴だ。

解析、解析。

【ようじょくにんげん 養殖人間・へんしゅ 変種】

| | | | |
|-----|----|-----|-----|
| | | LV | 3 |
| | | HP | 123 |
| | | MP | 11 |
| | | ST | 23 |
| | | STR | 123 |
| | | VIT | 11 |
| | | DEX | 22 |
| | | AGI | 22 |
| RES | 12 | INT | 20 |

こいつも雑魚だな、サクッと殺しちまうか！

サクッと殺つちゃいました、横薙ぎ一閃です。
そしてまた、脳内にピコーンと音声が響いた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回はレアアイテムはなしか…、最初のは初回ボーナスみたいなものだつたのかな?

能力が得られるだけでも大きいし、問題ないけどね。

今回得られる能力は

【戦士の才能】

【共通語／会話・読み書き】

【ドロップ率UP】

という、ラインナップだ。

ん~、この中だと…、とりあえず、上の二つはないなあ、【戦士の才能】は前回と同じ理由でなしだし、会話は話す相手がいない。

ここは、【ドロップ率UP】にするしかないかあ。

というわけで【ドロップ率UP】の能力をゲットする事にした。

【ピロリン、シロウは【ドロップ率UP】の能力を手に入れた。】

魔方陣に乗つて次の階層に行く。

前回とおなじく4階間にでた、左手にドア、右手にはエレベーターのつぽいもの、前方には魔方陣。エレベーターつぽいものが、新しく追加された施設かな？

ジーツ

と見て、【解析】を発動する。

ふむふむ、どうやら、行きたい階層の番号を入れて、ボタンを押すとその階層の拠点部屋に連れてつてくれるものようだ。
ただし、自分が行った事のある階層にしか行けないし、この階層より前の階層にはいけないらしい、と、言つ事は必然的に今は使えない代物しづものだな。

まあ、入力しなければならない数値がアラビア数字じゃないから、どつちみち使えないがな！

先の階層に進んでいけば、使う機会もあるかもなあ、次の能力取得では共通語の取得を考えたほうがいいかもしれない。

部屋に入るといつこ前の階層同様の部屋だった、ついでに調理器具の類がない、取りに行かねば…。

赤い奴や緑の奴をぬつ殺しつつ、調理器具をとりに戻る。

【ドロップ率UP】の恩恵か、倒せば必ずアイテムを落とすようになった、こいつらの落とすものは腐るほどもつてゐし、あんまりいらないけど。

さて、3階層目をかるべく探索して今日の探索はおしまいにするか…。

という事で毎度の“じとくフラフラ”と出歩く、3階層目には、青い奴、赤い奴、緑の奴と3色の養殖人間が出てきた。

どうも、ボス部屋にいた奴が次の階層から通常モンスターとして出

てくるみたいだな・・・。

とりあえず、青い奴が何を落とすか知りたいな・・・、2階層目のボス
だつた、【養殖人間・変種】はアイテムをドロップしなかつたし、
ボスはアイテムを落とさない仕様なのだろうか。

というわけで、青い奴をぬつ殺した結果ドロップアイテムが服の類たぐいだと判明した。

シャツとかパンツとか下着の類も落とした、そしてサイズは何故か
ジャストフィットだつた。

倒した人間のサイズになるのだろうか?まあ、何にせよありがたい
事だ、ありがたい事だから深く考えない事にした。

それにもしても、これでやつと着替えられる、今までずっと同じ服で
過ごしていたよ、バツチイ。

今着ている服は風呂場で洗濯しておこりへ、本当はお日様の下で乾か
したいんだけど、ここじゃ無理だし部屋干しするしかないか?、部
屋干しするとちょっと臭ツたりすんだよなあ。

○ 一二〇。

風呂入つて、シャツとパンツを着替えて、身も心も衣いぬももサッパリし
た今日は、ぐつすり眠れた、いつもぐつすり寝ているような気もす
るが。

んつ、いい朝だ！

今日で異世界に飛ばされてから…5日目だな…、たぶん…、早くも曜日の感覚がなくなってきたぞ。

そういうやあ、元の世界で俺はどういう扱いになつてゐるんだろう？ 捜索願いとか出されてるんだろうか？

親父とお袋は心配だが…、まあ、まだ元気だったし、姉ちゃんもいるし、俺の貯金も結構あつたし、そいつを使えば老後の生活は問題ないだろ、うん。

ああ、やめやめ、こなんん考えても、何にもならん、忘れる忘れる、はい！ 忘れた！。

とつあえず、今日は服の洗濯してから、探索に向かうかな…。

メシを食つた後に昨日の残り湯で服を洗う、別にガス水道代を払つてるわけじゃないので普通にお湯をだしてもいいんだけど、勿体無いじやん？

んで、洗つた後に服をよくしぼる、その絞つた服はいつたん置いておいて、煉瓦の隙間にナイフを刺して固定する、コイツを二箇所つくつてそのふたつのナイフの柄にヒモを結んでピーンと張る。

そのヒモに服を干す、なんでこんな事をしているかといつと、こじしないと服を干す場所がないのだ、赤い奴が物干し竿とか洗濯バサミとかはドロップしてくれたんだけど、流石に物干し竿置く台まで

はドロップしてくれなかつたのだよ。

まあ、ひとつあえず、そつやつて服を干す、干してる場所はベッドルームだ。

が上のせつじバラバラしても気にならない、メシはキッチンのせつじで食う。ベッドルームは夜寝るときまで使わないの、毎日パンツで食う。

んで、洗濯したスーツに変わって、**【養殖人間・変種】**（通称青い奴）が落とした服に着替える。

着替えた服は上は綿シャツ+厚手の綿のジャケット、下はこれまた厚手のズボンで色はグレー、生地はテニムっぽい、足は膝元まである

る黒い革のフリツ、一言で言うと冒険者ルツケ？ 前のスー^ツより若干動きづらいが、多少の事では破れない丈夫さに安心感がある。

さて服も着替えて心機一転、探索じやあ！心機一転してゐるのにやる」とはいつもと同じだがなあ！

青い奴やら赤い奴やら緑な奴やら、うじやうじやいる。

こいこいを毎度のことくサケサケ倒しておなやりと服せむ生活用品やら食料やらを手に入れ、一旦拠点に帰つてメシを食う。

「も8に上がった。

NAME
シロウ

L
V

| | | | |
|---|---|---|---|
| S | S | M | H |
| T | T | P | P |
| R | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 1 |
| 3 | 3 | 5 | 2 |
| 6 | 2 | 2 | 9 |
| 3 | | | |

| | |
|-----|-----|
| VIT | 168 |
| DEX | 133 |
| AGI | 176 |
| INT | 178 |
| RES | 135 |

昼メシを食つた後また探索を続ける。

またまた、どつちやりとアイテムを稼げたが、ボス部屋は見つからなかつた。

家に帰つてきて、干した洗濯物を取り込む、綺麗にたたんで【無限のポーチ】にしまう。

替えの服は大量にあるから、服は洗濯しないで、一回使つごとに捨ててもいいかなあという気もするが、やっぱ勿体無いのでちゃんと洗う事にする。

さて、今日は風呂入つて、メシを食つて寝るか…。

7話ついで

6日目！

今日も今日とて探索じやあ！

一連の行動、起きる メシ 洗濯、をした後、フラフラと出かける。
しばらくモンスターをやつつけながら歩いているとボス部屋にたどり着いた。

部屋の中央には黒い奴が佇んでいた。

漆黒の体に赤い瞳、金色の髪と…ってな感じで、表現すると強そうに見えるんだけどな…、たぶん、コイツも…。

まあ解析をかけてみるとわかるだり…。

【よつしょくにんげん きしょうしゅ養殖人間・希少種】

| | | | |
|-----|----|-----|-----|
| RES | 20 | LV | 4 |
| INT | 20 | HP | 133 |
| AGI | 22 | MP | 21 |
| DEX | 21 | STR | 24 |
| VIT | 23 | VIT | 128 |

ん~、予想通りの低ステータス、まあ、他の【養殖人間】と比べたらかなり強いけど。

とりあえず、何も考えずに近づいていって、剣を振り上げ振り下ろす。

「メイン!」

剣道の真似をして、頭から真っ直ぐに一閃、唐竹割だ、モンスターに反撃の暇も与えず葬り去つた。

例の「じとく頭にピーン」と音声が響いた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回得られる能力は…

【レアドロップ率HP】

【共通語／会話・読み書き】

【盗賊の才能】

この三つか…、しつこく出ていた【戦士の才能】がなくなつたな。

変わりに【盗賊の才能】と【レアドロップ率HP】が

入ってきたみたいだけど、選べる能力はランダムで決定しているのだろうか?まあ、そんな事より取得する才能を決めなきやだな。

ここはエレベーター使えるようにするために、【共通語／会話・

読み書き】を取得するべきだらうか。

だが…、【レアドロップ率】に惹かれる、すぐ惹かれる。

うへへ、どうしようか…。

…いいやー、これこしかりやべーいー。

…

【ピロリン】、シロウサ【レアドロップ率】の能力を手に入れた。】

うひひ【レアドロップ率】ゲッター。

よしそ、次の階層に進むぞ！

例の「」とく魔方陣にのり、4畳間にである。

構造は下の部屋と一緒に、左手の部屋から出て部屋を見渡す、今回は何が増えたかな?と思っていると、部屋の隅っこにドアが一つ追加されているのを見つけた。

そのドアを開けて入つてみると8畳程の空間があつて、正面にテーブンと銀行とかに置いてあるキャッシュディスペンサーのようなものがあった。

とりあえず、見ただけでは用途がわからない、キャッシュディスペ

ンサーではないと思つ、取り出しきつぽいものがやけにでかいし…。

悩んだときの為の便利スキル、【解析】を使ってみる。

どうやら、自動販売機つぽいものらしい。

アイテムの名前を入力して、代金を入れるとそのアイテムが手に入る、逆にアイテムの買取もしてくれるらしい。

ただ…、入力する文字とかが俺の知らない言語…、たぶんこの世界の共通語なので俺には使えねえ！

次は絶対、共通語を取得しなければ…、ギュッといぶしを握つて決意を固める。

まあ、それは置いといて下の拠点に鍋とかフライパンとか取りに行くか…、洗濯物も干しちゃなしだったなあ。

途中、モンスターをザクザク斬りながら進んでいると緑の奴がアイテムを二つ落とした。

一つはいつも落とす萎びた野菜、もう一つは…たんぽぽのような花？葉っぱと茎の部分たんぽぽによく似てて。いる。

ただ、花の部分が胡桃みたいになつてて、固そう。

よくわからないがこれがレアアイテムかな？使い道がわからないので【解析】を使う、まじで便利だなこのスキル…、取得してよかつた。

名前は【チョコボボ草】というらしい、胡桃つぽい花の部分を割ると中に、甘い実が入つてているそつな。

わざわざ、割つてみる。

ふわっと香るカカオの香り、見た目こげ茶のまあるい物体。

…これは、もしかして…。

口に含んで舌で転がす、あるいは物体が口の中で甘くとけだす、この鼻に抜ける独特的の香ばしくも甘い香りと、舌に広がる仄かな苦味と強烈な甘みは…。

間違いないない、こいつはチョコレートだ！チョコの部分をなめていると中にはカリカリとしたアーモンドが…、いや、実際にはアーモンドじやないんだるうけど、アーモンドが入っていた。

香ばしい香りを楽しみながらカリカリとアーモンドを噛み碎く、食べ終わつた後は、なんだか幸せな気分になつた。
あー、おいしかつた、久しぶりの甘味だしな。

前の世界じやいつでも食えたけど、コッチの世界じやレアアイテム扱いなんだなあ【レアドロップ率】ひとつて良かつた。

そのまま、拠点部屋で鍋とかフライパンとか洗濯ものを回収し（洗濯物は乾いていた）上の拠点部屋に帰る。

途中で、また1個【チョコボボ草】をゲットできた、うまあー。
ああ、ついでに言うと青い奴のレアドロップは剣だった、んで赤い奴は、魔法の力で光るペンライトを落とした。

さて、ボスを二回倒して3階層進んだわけだから、最初の階層が1階層だとして、今は4階層の拠点部屋にいるわけだな。

とりあえず、昼飯を吃了た後に、この4階層目の探索を開始しますか。

フラフラと探索をしつつ、途中で見かけた黒い奴を倒すと、【コイン】の様なもの落とした、これが黒い奴の通常ドロップ品だな。
使用用途がよくわからないので、【解析】【】を使う。

… お金だ。

【コイン】は単純にお金だった。

この【コイン】は100クラム【コイン】らしい。

うむ、100クラム（以降クラムをCRMと表記します）の価値がよくわからないが…。

自販機でアイテムの売買が出来るようになれば、価値もわかるようになるだろう。

その後も、探索を続け切りのいいところで、引き上げる事にした。

黒い奴から【コイン】を大量にゲット、あと、青い奴から防具の【ブレス】、【ストアーマー】をゲット、赤い奴からジッポライター的なものをゲット、正式名称【チャッカ】マジックアイテムで魔法の力で火を出すらしい、まあ、所詮ライター程度の火なので武器にはならないんだけど。

後、縁の奴がおいしそうなお肉を落とした。

名前は【ラウム肉】、夕飯が楽しみだな。

LVも9に上がった。

NAME シロウ

LV 9
HP 131

| | |
|-----|-----|
| MP | 153 |
| ST | 134 |
| STR | 165 |
| VIT | 168 |
| DEX | 135 |
| AGI | 178 |
| INT | 180 |
| RES | 136 |

その日の夕飯はとてもおいしかった。

まるでラム肉からさりに臭みをとったような味わいで、ひと噉み事にあふれる肉汁、柔らかくて蕩ける様な舌触り、文句なく絶品だった。

ここにきて、俺的、縁モンスター株は急上昇である、よくやつた。
ふう…、うまい飯も食えたし何だか幸せな気分だ。
明日もうまいメシのために頑張るぞー！

とこつわけで、おやすみなさい。

今日も今日とて探索じゃあ！…というわけで、フラフラ出歩く。

モンスターを倒しながらあつちこつちへ進んでいたが、ボス部屋は見つからず、スゴスゴと拠点部屋に戻つてくる。
コインとか、武器とか防具とかマジックアイテムとか手に入れたが、まあ、それはどでもいい。

そ・れ・よ・り・も！

緑の奴がコメと醤油を落としたのだ。

日本人の魂フード、コメと醤油を！コメと醤油を！大事な事だから2回いいました！

ふう…

今日の昼飯はイイものになりそうだ。

電気炊飯器がないので、ナベを使ってコメを炊く事にする。
正直、電気炊飯器以外でご飯を炊いた事がないので、うまくいくか心配だが仕方ない。

おかげは、萎びた野菜を使っておひたしを作ることにする。
しばらく待つて、ご飯が炊けたように見えるのでナベの蓋をとつて、ご飯をよそう。

お粥みたいになつてた、水の分量を間違えたか…。」。

おひたしをおかずにお粥をする。

ちょっと失敗、テンションが下がる、おかずも鮭の塩焼きとかほしいな。

メシも食つたし、午後の探索に行くかあー、という所で、ふと自分を解析できないか気になつた。

なんか、スゴイ今更感があるが…。

レベルとか数値のステータスは解析かけなくとも見れるけど、解析すれば俺の種族とか確認できるかもだし、見てみよう。

洗面所の鏡に自分を映して見る、視線が通つてないと解析はできないもので…。

まず種族は…【ヒューマン・スカラー・いからしゅ異界種】

ふむふむ、たぶん【人間】＝【ヒューマン】という事なんだろう。

で、スカラーツてのはなんだ？よくわかんないな？

スカラースカラースカラー…もしかして【s cholar】か？学者、もしくは、学生つて意味だよな…。

俺はもう学生じやないし…、学者つてイメージ的に俺とはかけ離れてる気がするが…、まあいいか。

んで、異界種つてのは俺が異世界人だからだな。

ふむ、ん？所持能力も見れるようだな、どれどれ

【方向感覚】 一度行った事がある場所なら、迷わずにたどり着ける。

【結界無効】 ありとあらゆる結界を存在しないものとして扱う事ができる。

【解析】 モンスター やアイテム等の能力や効力を知る事ができる。

【ドロップ率】 モンスターがアイテムを落とす確率を1千倍にする。

【レアドロップ率】 モンスターがレアアイテムを落とす確率を1千倍にする。

ふむ、能力の詳細がわかるのは有難いな。

あと、見慣れない能力があるけど、これは俺が元からもつていた能力と考えていいのかな？

【方向感覚】 って、そういう今までマッピングとか全然してないけど一度も道に迷わなかつたな！

よし、自分の能力もわかつた事だし、探索を開始しますか…。

今日中にバス部屋までたどり着きたいな。

というわけで、バス部屋を探してうろつきました、俺。

途中縁の奴が【アラマキ・ジャケ】っていうアイテムを落とした。うん、その名のとおりの奴です。

今日もうまい晩御飯が食べれそうだ！ それとも、あしたの朝飯用に

取つておいたほうがいいのかな？

んで、ボス部屋までたどり着いたんだが。

部屋の中央に今までとは見た目が大分違うモンスターが立っていた。
【養殖人間】と同じ人型なんだけど、まず大きさが違う、身長が3
㍍くらいある。

腕が太くて膂力があるのを見て取れる、強そう。

体は木で出来ているようだが、貧弱な感じは受けず何百年と生きた
巨木のような威圧感がある。

あと、顔の鼻の部分にあたる場所から枝がぴょこんと出ていて、葉
っぱがついてるのがムカツク、チャームポイントのつもりか！

とつあえず、近づく前に【解析】を使ってみる。

【ウッヂゴーレム】

| | |
|-------|-------|
| L V | 5 |
| H P | 3 5 0 |
| M P | 6 1 |
| S T | 1 2 2 |
| S T R | 2 8 5 |
| V I T | 1 8 9 |
| D E X | 1 0 5 |
| A G I | 2 3 |
| I N T | 6 1 |
| R E S | 6 2 |

「ブーッ！」

ステータス高すぎじゃね？

【養殖人間】と比べたら段違いに強いぞ！？

あれ？でも俺と比べたらそうでもないか？イケルか？

俺のステータス

| NAME | シロウ |
|------|-----|
| LV | 9 |
| HP | 131 |
| MP | 153 |
| STR | 134 |
| ST | 165 |
| VIT | 168 |
| DEX | 135 |
| AGI | 178 |
| INT | 180 |
| RES | 136 |

うむ、試しに闘つてみて駄目だつたら逃げよう。

ボス部屋に突っ込み【ウッヂゴーレム】の一撃をくらわす。

ガツ！

と、音がして剣が【ウッヂゴーレム】の脇部に食い込むが、ほとんど斬れない。

とこりか、剣が引っかかるって抜けない。

【ウッヂゴーレム】が、剣を引き抜こうとしている俺を潰しにかかってきたので、あわてて剣から手を離し、パツ！と飛び退り距離をとる。

体には剣が食い込んだままが、『氣にも留めずに動いている、こいつには、痛覚とかは無さそうだな。

新しく【無限のポーチ】から剣を取り出し、再度斬りかかる、今度は俺から見て右側になる【ウッヂゴーレム】の左足を狙う。こちらも ガツ！ と音がして剣が浅く食い込むが、たいしたダメージにはなっていない。

まあ、簡単に引き抜けるように、弱めに斬りつけてるのでじょうがないだろ？。

それにして、木つて奴は意外と堅いんだよなあ、まあ、刃が通るだけましだが。

「おつヒー。」

【ウッヂゴーレム】が回転しながら、右腕で俺を殴りつけてきた。間一髪、拳をかわすと【ウッヂゴーレム】の拳が地面を抉つた。

【ウツジマーレ】の拳を中心とした直径1m程のミニクレーターが出来上がる。

うわあ、仮にも煉瓦で出来た地面をじんだけ抉るなんて、なんちゅう馬鹿力だよ。

これは、一発でも喰らつたらあの世逝だな。

【カツエリーレム】がバランスを崩している内にするすると近づき再度左足を斬りつける。

動きを観察した結果、コイツの効き足は左足と見た。
それからは、ずつとうううううつつつつと、執拗に左足を狙つて
いく。

ふふふ なんともチクチク
チクチク 同じ場所を攻撃して
足を ぶつ壊してやるわ。

左肘鉄みぎじゆつをかわし、斬りつける、右の回転ブロウをかわし斬りつける、右拳の裏拳をかわし斬りつける。

俺は常に【カツジドーレム】の左のお尻側に位置するよう動くため、俺を攻撃するには左足を使って回転しなければならない。右拳による裏拳なら右足を軸に出来るが、それだと俺を視認できなければ、攻撃があたらない。俺が何処にいるかわからなくなるので、多用はできない。

みて、左足を軸にして動かさるを得ない、ふはは、どうだっつぢ
かうう。

そうして、地味にダメージを蓄積していく結果。

【ハッシュマーク】の足は、まつ毛が折れた。

「ここまで、1時間くらいかかった。

一発でも喰らうと死の『スゲーム』、俺もよく集中力がもつたよ…。

さて、足がぽつきり折れた『ゴーレムくん』、腕力はまだ健在なので油断すると危ないが。

体がデカイので死角も多い、体の可動域が少ないので、後ろには攻撃できないのは確認済み、だからせつきまで、クルクル回つて攻撃してきていたのだろう。

背後からすると近づいて、剣から持ち替えた、斧で頭を叩き割る。

人型だし、たぶん頭が弱点だらう。

頭を壊しても、動くようならちとめんどくさいが粉々にするしかない。

と、まあ、そんな心配もなく頭部を破壊すると『ゴーレム』は靈となつて消えていった。

とりあえず、一撃も攻撃を喰らわずに倒せた、というと楽勝だったように聞こえるが。

こつちは一撃でもくらつたら終わりだし【ウッドゴーレム】は意外と素早く何時攻撃をくらうかとヒヤヒヤものだつた。

とりあえず、ボスを倒したので例の『ごとくあれがくるだろ…。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスでレアアイテムと能力が与えられます。レアアイテムから授与します、次の中から欲しいものを選んでください。】

ほいきた、今回はアイテムももうえむのか。

田の前にアイテムが三つある。

1つ目、剣、金色でピカピカ輝いている、かつていい、勇者とかがもつてそう。

2つ目、水晶で出来ている玉、野球のボールと同じくらいの大きさで綺麗な文様が刻まれている。

3つ目、ビン、栄養ドリンクのビンにそっくり。

栄養ドリンクが気になつたので、それを取つた。

取つてから気づいたが、先に【解析】を使つとけばよかつた。後悔先に立たずで、手をつけなかつた剣と水晶玉が霞となつて消えてしまつた。

まあ、いいか。

んで、もらえる能力は以下の三つだった。

【共通語／会話・読み書き】

【盗賊の才能】

【縫製の才能】

「」は迷わず【共通語／会話・読み書き】をとる。

【ペロリン】、シロウは【共通語／会話・読み書き】を習得した。

そして、また、例の「」とく次の階層へと進む。

拠点部屋に今回は何が追加されたかなあ？と見ると一目でわかる変化が起こっていた。

ベッドルームの壁の一角がガラス戸に変化している。

ガラガラあつと、戸を開けるとベランダが…。

洗濯物をお日様の下で干したいという願いが通じたのだろうか？ベランダに出て上をみると雲ひとつない空に燐々と輝く太陽が…。下を見ると延々と続く真っ暗で何も無い空間が…。

試しに【無限のポーチ】から剣を一本取り出し落としてみる。

ヒュ――
――ツ。

：

：

：

あれ？音がしない…、地面にぶつかった音がしないよ？
たぶん、底なしなんだな、ナニソレ怖い。

これも、深く考えたら負けな気がする。

とりあえず、増えた施設も確認できたし、今度は外に出てみよう。

【ウッドゴーレム】がうじやうじやいるような、ここでの狩りは一旦あきらめて、前の階層でレベルUPなりしてから再挑戦する事になりそうだ。

あんなの複数相手に戦えん！前後で挟まられたら前の奴に気を取られてるうちに後ろから殴られて、ゲームオーバーだ！

ん？でも、あの大きさだと通路は通れないだろ？つまりすれば、1対1に持ち込めるか？

まあ、とりあえず、ドアを開けて、外に出てみる。

…ドアの外はこれまでの階層とはだいぶ趣が変わっていた。

一言で言つと洞窟、それも鍾乳洞とかがある自然の洞窟みたい。しかも、結構広い【ウツドーム】くらいのテカさでも余裕で動き回れるくらいの広さだ。

そして、「じや「じや」とではないが、ちいせりと【ウツドーム】が見かけられる。

俺はスゴスゴと戻して、前の階層でレベルヒヤに勤しむ事にした。

帰るときドアを見ると、何もない空間に浮かんでいて笑えた。

9. 四つ打（後書き）

拳を中心にして直径60cm程の「一クレーター」
12程の「一クレーター」
に修正
ゴーレムの拳は結構でかい設定なのでこれくらいはいくつも

さて、そういうえば前の部屋に生活用品とか置きっぱなしだったな、取つてこないと…。

うん、共通語を取得したわけだし、エレベーター（またの名を拠点移動装置）を使ってみようつと。

ふむ、ここは5階層でいつこ下が4階層か…、知らない文字が頭の中で再構成されて、わかるようになるつていうのは不思議な感覚だな。

とりあえず、4階層の拠点部屋から鍋とか生活用品を持つてくる。生乾きの洗濯物もコツチに持つてきて干す、せつかくベランダがあるんだし…。

そして、自販機のほうも使ってみることにする。

『アイテムを売る』と入力して、パンを一個いれてみる。

パンは一個、500円で売れるらしい。

今度はパンを買ってみようとする、1個500円するらしい。

今度は剣【ロングソード】を入れてみる、売値は1万3500円で買値は13万5000円…。

色々なアイテムで試して見た結果、売値は買値の10分の1になる事、嗜好品の類はかなり高額になる事がわかつた、【チョコボボ】一個が1万円とかする。

あと、生活用品とか食料の値段から換算するに、たぶん 1円 = 1円くらいの価値だらうというのがわかつた。

この自販機はこれからかなり利用する事になるだらう、【チョコボ

ボ】とか【ラウム肉】とか買つたために……じゅる。

ああ、そういうえばさつき手に入れた栄養ビンに【解析】を使
うのを忘れていたな、とりあえず効力を調べておくか……。

ふむふむ、名前は【ラストエリクシール】で、用は強力な回復薬つ
てところか。

ドリンク剤の様な見た目に反して、別に飲み薬つてわけではなく、
手に持つて念じるだけで効果が発揮されるらしい、死んでさえなけ
れば、足がもげようが、心臓が潰れていようがすぐさま再生される
そうな。

まあ、そんな状況になど陥りたくないが結構便利なアイテムだつ
たわけだな、一回こつきりの使い捨てみたいだが。

まあ、色々わかつたところで、レベル上げにいくか。

というわけで、4階層でモンスターを何体か倒しているとLVが上
がつた。

いつもどおり【ピロリロリロリーン シロウはレベルが上がった】
という音声がながれた後に、聞き捨てならない音声が入った。

【成長限界に達しました、これ以上はLVは上がりません】

えつ？ ちよつ？ まじで？ もうこれ以上LVあがんないの？ うそだよ
ね？

LV10で限界つて低くない？ つていうか、今のままだと5階層の
攻略がままならないんだけど。

NAME シロウ

LV 10

HP 131

| | |
|-----|-----|
| MP | 154 |
| ST | 136 |
| STR | 166 |
| VIT | 169 |
| DEX | 136 |
| AGI | 180 |
| INT | 182 |
| RES | 137 |

（一週間後）

まじで、LVが上がらない、今までのLVアップのペースを考えるとやっぱり、限界に達したと考えるべきだろ？

5階層の攻略、どうしよう？

ん~、一対一で【ウッヂコーレム】倒せたんだし、うまくやれば問題ないかな？

試しに行ってみるか！

…この後、考えが甘かった事を思い知らされる事になるわけだが、このときの俺はまだ何も知らなかつた。

しばらくは、【ウッドゴーレム】を避けつつ探索をしていたが、そういうまでも避け続けられるわけではない。

どうしても、通りたい場所に【ウッドゴーレム】がいたために、攻撃をしかける事に…。

一度倒した事もあるし、周囲に他のモンスターがいなければ大丈夫だろうと持っていたのだが、

【ウッドゴーレム】と戦っている間に【養殖人間】に背後に回りこまれていた。

正直、【ウッドゴーレム】を相手にするのにいっぱいいっぱいで周囲の状況を確認している余裕がなかった。

背後から【養殖人間】の一撃をくらつ、今まで攻撃をくらつたことがなかつたのでわからなかつたが、【養殖人間】の一撃はかなり痛い。

HPも30程持つて行かれた、俺の最大HPが131であることを考えればかなりのダメージだろう、とりあえずコイツを倒さなければ。

と、意識を【養殖人間】に移したのがまずかった。

意識をはずした瞬間に【ウッドゴーレム】の一撃を肩口にくらつてしまつた。

咄嗟に体を捻り、衝撃を受け流したが、右腕は肩口からもげ、きりもみしながら5mほど後ろに吹つ飛び壁に叩きつけられた。

イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ
タイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ

右腕は千切れ、肋骨は折れ、内臓は潰れ、口から血を吐き出す。

イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ
タイイタイコノクルシミカラノガレタイ

脳が悲鳴を上げ痛みを拒絶するために意識を遮断しようとする。

イタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイイタイ
タイイタイモウダメダアキラメヨウ

まずい、気絶はマズイ、早く回復を、痛みをやわらげないと、意識を失えばそこに待つのは、死だ。

必死にまだ動く左手を使い【ラストエリクシール】を取り出し、回復しようと念じる。

すると、体の傷が癒え、千切れ飛んだ右腕も再生する。

ついでに、治療が終わっている詰め物をした歯も部位の欠損とみなされたのか、新しい歯が生えてきた。

まあ、そんなことはどうでもいい、俺は即座にその場から逃げ出した。

幸い【ウツドゴーレム】は足が遅い、俺が全力疾走すれば追いつけはしないだろう。

拠点部屋に戻り扉を閉めた後にその場で崩れ落ちる。

ゴーレム怖い、ゴーレム怖い、ゴーレム怖い【ラストエリクシール】がなければ確実に死んでたよ、あの時、栄養ドリンクのビンを選んでおいて良かつたあ。

自分の悪運に感謝しつつも、もう一度と5階層に行かない決意し

た。

もへ、先に進むとかどうでもいい。

この4階層でもつましいメシは食えるし生きていくことは困らないしつつとにかく暮らしていくべきだ。

こつじて、俺の冒険は終わりを迎えた。

俺はこれからもモンスターを倒しつつ生きていくだろう。

だが、この階層から進む事は、もうない…。

俺の冒険は終わつたんだ…。

おしまい

おわりません、まだ続きます。

一〇番地（後書き）

流石に、こんな少年誌の打ち切りのよつたな終わり方はしませんです。
でも、じじで更新が滞つたりしたら、終わつたんだと勘違いされそ
う。
はやく、続きを書かなければ。

1-1 話題の探し方（前書き）

時間をばして結果だけが残つた。

続き！

「あれから数十年の時が過ぎた」

ついに、俺はゴーレムにリベンジする時が来た、見よこのステータスを！

NAME

シロウ

HP

514

MP

681

ST

561

STR

549

VIT

509

DEX

561

AGI

690

INT

726

RES

579

え？

LV10で成長の限界に達したんじゃなかつたのかつて？

フフフ、それがだよ、【養殖人間・希少種】が、極稀に成長限界を引き上げるアイテムをドロップするのだよ。

それは、もう凄く低い確率で…、だいたい10万体に1体くらいの割合だから確立にして0.0001%だな。

まあ、そうして成長限界を引き上げつつ、このLVまでレベルUPを繰り替えし続けたのだ、ちなみに現在の俺の成長限界はLV120だ。

なんで、こんなLVになるまで、進まなかつたのかつて？

だって、怖いんだもん、LV95になつた今でさえ、【ウッヂゴーレム】と戦うと思つと、ガクブルですよ…。

だが、今日こそ、5階層に繰り出すと決めたんだ。

頬を叩いて気合を入れる、鏡を見て身だしなみを整える、べつ、別に時間稼ぎをしていいわけじゃないぞつ！？

それにして、鏡を見て思うんだが、此処に来てから全然年をとつていない、むしろ若返つてているようにさえ見える。もう、何十年もたつていてるはずなんだけどなあ。

理由はわからないが、ここはそういう場所なんだと思つて深く考へない、これも深く考えたら負けな事象なんだろうな…。

年は取らないけど、髪は伸びてうざい長さになつて、流石に後ろの髪は肩口くらいまで切りそりえているんだが、自分で切れるのはそれぐらいで。

今や俺の髪型は長髪オールバックになつて、短く刈り込むほう

が好みなんだけどなあ。

筋肉がついて、ガタイが良くなつてゐることもあるて、一見ヤクさんに見える、怖い。

いつまでも、うだうだ考えていると、決心が鈍りそつなので、扉を開けて外に出る。

緊張しながらも、しづらへ歩こんで洞窟の奥に【ウッドゴーレム】を見つけた。

剣を抜き、じりじりと近づいていく事にする。

今使つてゐる剣は【バスターードソード】という剣だ、刃渡り1・2m程で柄が長く両手でも片手でも扱える便利な剣だ。

俺的にはもう少し重くてもいいんだけど、これ以上重い剣だと刃渡り2mとかになって取り回しづらいのでこの剣をつかつている。

ある程度近づいたところで【ウッドゴーレム】がこちらに気がつき向かってきた。

ここは、自分の力を試すためにも正面から立ち向かう！

と、みせかけてススッと後ろに回りこむ、正面から立ち向かうの明らかに実力差のある奴を相手にするときだけだ。

正面から立ち向かうなんて、馬鹿のすることですよ…。

つてこりうか【ウッドゴーレム】怖いし…。

そのまま左足に斬りつける。

ドガツ！ といふ音と共に【ウッドゴーレム】の足が吹っ飛んだ。

【ウッドゴーレム】が、バランスを失い後ろ向きに倒れこむ。

頭部がちょうどいい具合に降りてきたので、そのまま剣を頭めがけて振り下ろす、いわゆる兜割りだ。

俺の剣の一撃をうけた【ウッドゴーレム】の頭部は、パカッ と割

れて真っ一いつになつた。

【ウッヂゴーレム】はそのまま靈となつて消えていき、後には木片がひとつ残された。

【解析】をかけてみた、【魔法樹の木】というアイテムらしい、たぶん【ウッヂゴーレム】のドロップアイテムなんだろう。

「フフフ、フハハハハハツツ！」

一撃！あれだけ恐れていた【ウッヂゴーレム】がたつた一撃で墜ちるとは！

圧倒的じやないか我が軍は！軍などもつていながな！

その後、テンションが上がってひやつほい！状態の俺は見かけた【ウッヂゴーレム】を片つ端から狩つていつた。

【魔法樹の木片】を大量にゲットした。

翌日、小さこながらも確実な一步を踏み出した俺はさりげ上の階層を田指す事にある。

今まで足踏みをしていた分、一気に駆け抜けたい！
とこつわけで、ボス部屋にたどり着いた。

目の前に居るのはドラゴンと犬を足して割つたような生物なまものだった。
犬から毛をとつて変わりにウロコをはつ付けコウモリの羽をつけた
感じだ。

その名も【ドッグドラゴン】…、見たまんまである。

ステータスは

| | | |
|-----|---|-----|
| L | V | 6 |
| H | P | 130 |
| M | P | 86 |
| S | T | 90 |
| STR | | 99 |
| VIT | | 66 |
| DEX | | 148 |
| AGI | | 137 |
| INT | | 65 |
| RES | | 105 |

と、あまり高くない、むしろ【ウッドゴーレム】のほうが高いと思う。

なんだよコトヤッ【ウッドゴーレム】よつ先に出来りよ。

と、思いつつも、攻撃を開始する、…と、すぐに戦闘は終了した【ウッドゴーレム】をも凌駕する今の俺の敵ではなかつた。

火を吐いてきたのは驚いたが…、流石はドリゴンと言つたところか。

そいでもつて、例の「」とく音声が響いてきた。

【ゲートキーパーを倒したので次の階層に進めます、また、ボーナスで能力が与えられます、ほしい能力を選んでください】

今回はレアアイテムはなしで、能力は以下の三つから選べるようだ。

【魔法の才能】

【縫製の才能】

【盗賊の才能】

この中だと気になるのは【魔法の才能】かな？

とこ「うか、やつぱり魔法つてあるんだ。

俺は【魔法の才能】をゲットする。

せつからく【魔法の才能】を手に入れたので、試しに魔法を使つてみようとしたが、魔法の使い方がわからない。

「ファイアーボール！」

「アイス！」

「ケル！」

「メガ テ！」

試しに適当な魔法名を叫んでみるが、全然発動する気配がない。いや、最後のは発動したらヤバイが…。なんてこいつた！才能があつても魔法に関する知識がないと使えないのか…。

ちょっと、ショックを受けつつトボトボと次の階層へと進んだ。

拠点には地下室が追加されていた、階段を下りると広い部屋になつている。

窓がないのでちと暗い…、まあ、この部屋を使うことはないだらうから問題ないか。

前の拠点部屋から、生活用品を移して次の階層へ進む。

次の階層で【ドッグドッグ】を倒し、【犬竜の鱗】といつアイテ

ムを手に入れた。

まがりなりにも竜なわけだし、鱗は防具の素材になるのだろうか？

そのまま探索を続行すると本田2度田のボス部屋にたどり着いた。一日で二階層進むのは初じやなかろうか。

ボスはこいつの階層にいた【ドッグドッグ】の色違いで【ドッグドラゴン】が緑色なのに対し、今回のは青色。

【ドッグドラゴン・亜種】とかだろうか、【解析】【】をかけてみる。

【ハイドッグドッグ】

| | | |
|---|---|-----|
| L | V | 7 |
| H | P | 150 |
| M | P | 106 |
| S | T | 110 |

| | |
|-----|-----|
| STR | 110 |
| VIT | 67 |
| DEX | 152 |
| AGI | 158 |
| INT | 89 |
| RES | 127 |

名前は【ハイドッグドーラゴン】か…、なるほど…、マンネリを嫌つたんですね？ わかります。

どちらにせよ、このステータスなら俺の敵ではないな。

剣で一閃、【ハイドッグドーラゴン】を倒す。

いつもどおりの音声の後に能力をゲットする、今回もアイテムは無し。

今回は【盗賊の才能】をゲットする。

トラップを見つけたり、鍵を開けたり、トラップを解除したり、気配を消したり、聞き耳を立てたり、アイテムを盗んだりする才能だそうだ。

覚えておいて損はないぞうだと思ひ、この迷宮的なものでは罷とから全然出てこないけど、これからも出ないとは限らない。

そのまま、次の階層に進み、拠点部屋の追加施設を確認する。

今回は、地下室にベランダが追加されていた、といつか、ベランダがある時点での部屋はもう地下室じゃないな。

最初にあつた部屋が2階でこの部屋が1階といつてなるのだろうか？

なんにせよ窓が出来たおかげで、明かりが入ってきて居心地がよくなつた。

まあ、この部屋使わないけど。

今日はこの辺で探索をやめ、続きは明日にする。

いつもどおり、風呂は行って飯食って寝た。

ちなみに、お金に余裕があるので、飯は毎日高級食材を使っている。

この数十年で自炊能力も上がったよ……。

おやすみなさい。

13 話題っぽい

さて、次の階層だ！

というわけで、7階層目に突入する。

モンスターを薙ぎ払いながらボス部屋を探して駆け回る。

ここ【ボスモンスター】は【ゴブリン】だった、ファンタジー世界では定番のやられキャラだな。

ステータス

| | | LV | |
|-----|----|-----|--|
| | HP | 107 | |
| | MP | 65 | |
| ST | 65 | | |
| STR | | 108 | |
| VIT | | 84 | |
| DEX | | 83 | |
| AGI | | 62 | |
| INT | | 81 | |
| RES | | 65 | |

今までのモンスターと違つて武器をもつてゐるが、予想に違わず雑魚だったのでサクッと倒して次の階層へ進む。

取得能力は【縫製の才能】に決定。

拠点の追加設備は、1階の部屋のベランダが庭へと変化していく事だった。

日本の狭いお庭と同程度の広さだが…。

そもそもつて次階層へと進み、ボス部屋へと一気に突き進む。

ボスは【ゴブリン・ファイター】だ。

ステータス

| | |
|-------|-----|
| L V | 9 |
| H P | 128 |
| M P | 65 |
| S T | 66 |
| S T R | 129 |
| V I T | 104 |
| D E X | 85 |
| A G I | 64 |
| I N T | 71 |
| R E S | 62 |

鉈と皮製の鎧を装備しているが、じつもせして強くない、といふか今の俺の力だと皮製の鎧」とぶつた切れる、サクッと倒して次へ進む。

取得能力は【鍊金術の才能】

拠点の追加設備は、庭が広くなつていた事だった。

大体、奥行き50m×横幅100mくらいの広さだと思つ、凄く広くなつてびっくりした。

とりあえずそれは置いといて次の階層へ進む。

ここも、ボス部屋まですんすん進む。

9階層目のボスは【ゴブリン・アーチャー】だった、ゴブリン3連

続。

ステータス

| | |
|-----|-----|
| LV | 10 |
| HP | 85 |
| MP | 65 |
| ST | 65 |
| STR | 109 |
| VIT | 84 |
| DEX | 129 |
| AGI | 67 |
| INT | 99 |
| RES | 67 |

コイツの武器はアーチャーの名に違わず弓矢のようだ、【ゴブリン・アーチャー】に有利になるようになら、ボス部屋はかなり広い空間になっている。

【ゴブリン・アーチャー】が遠距離からびしばし矢を放つてくる。一発目、一発目と、矢をかわしながら近づいていく、AGIが上がっている恩恵か今の俺には矢がスローモーションで飛んでくるように見える。

時には避け、時には剣で叩き落し近づいていく、距離を詰められてしまえば【ゴブリン・アーチャー】に成すすべはない、サクッと【ゴブリン・アーチャー】を屠つた。

能力は【鍛冶の才能】をゲットする。

拠点には1階の部屋のとなりにさらに部屋が追加されていた、40畳くらいあるでつかい部屋だった。
もっとも、俺が使るのは2階の部屋だけなんで宝の持ち腐れなんだが。

2階層下の拠点部屋から、生活用品を持つてきて、僕はんにすることにする。

僕はんにパンの耳を切らないことによって具をたくさん挟み込む事に成功した俺特性のサンドウイッチを食べながら、今日の予定を考える。

今日はもう、3階層も進んだわけだから、一日探索を切り上げて武器や鎧の整備でもしようかな？
手に入れた能力の性能も気になるし…。

何気なく手に入れた【縫製の才能】 【鍊金術の才能】
【鍛冶の才能】 の三つだが。

三つの才能だと面白い事ができるらしい、何でもMPを消費する事によって、工程をすっ飛ばしてアイテムの生成ができるそうな。物理的に無理がくる事をやろうとするど、その分MPの消費も大きくなるが、逆に言えばMPさえあれば無茶な事ができるという事だ。その日の午後は探索をせずに、武器や防具の修復を行なつたり、服を繕つたり、改造したりして過ごした。

【バスターードソード改】を手に入れた。

説明しよう！【バスターードソード改】とは、既存のバスターードソードに鋼を加えて打ち直し、強度と破壊力の向上を図つたものだ。その分、重量が増してしまったが、今までの重量では物足りなかつた俺にとつてはこつちの方が使いやすい。

翌日！

今日は10階層の探索だ、二桁まで来れたぞ！

この階層から迷宮が洞窟から森に変更された。

森には鬱蒼うつそうと木が茂つていて、そうでない部分がある。木が生えてない場所が部屋であり通路なんだろうと思われる、良く出来ている。

さて現在探索している10階層だが、出てくるモンスターは【ハイドッグドラゴン】【ゴブリン】【ゴブリン・ファイター】【ゴブリン・アーチャー】の4体で、LVは大体5～10程度だ。

どうやらその階層の数値が出てくるモンスターの最高レベルになって、今の階層から3階層下のモンスターまでが出てくる仕様になっているようだ。

それとモンスターの【ゴブリン】だが、武器を使つてるわけだから俺的には、ある程度の知性があるんじゃないかと疑つてたんだが。この迷宮の【ゴブリン】からは知性が感じられない、というかむしろ意思とか自我を感じる事ができない、俺を見たら無条件で襲い掛かる呪いでもかけられてるよう感じられる。

まあ、その辺も気にしない方がいい類のものなんだろうが…、何にせよ、この迷宮には不自然な部分が多くすぎる気がする。

まあ、今更か…。

とりあえず、ボス部屋へと突撃する！

今回のボスは【ゴブリン・メイジ】見た目はローブを着て杖をもつた【ゴブリン】だな。

ステータスは

| | |
|-------|-----|
| L V | 11 |
| H P | 90 |
| M P | 132 |
| S T | 68 |
| S T R | 85 |
| V I T | 62 |
| D E X | 87 |
| A G I | 69 |
| I N T | 149 |
| R E S | 109 |

こんな感じ。

杖をフリフリした後、なんかもによもによと言つたを思つたら、火の玉が飛んできた。

メイジの名前に違わず、魔法を使つてくるようだ。

とりあえず、かわそそうと思つて左にステップしたが追尾機能があつたらしく、ちょっと掠つてしまつた。

10ポイント程ダメージをくらつた、掠つた右腕がひりひりする。

二発目、またも杖をフリフリもによもによした後に、火の玉をうつてくる。

今度は剣でスパーント斬つてみることにする、なんか出来そうな気がしたので…。

結果は、剣ごと俺が火達磨になつた、仮にも高レベルなのでちよつ

と焦げただけですんだが。

アン先生、剣で魔法は斬れないよ、海 斬とか実際にやろうとしても無理だという事がわかった。

三発目、四発目～十何発目と魔法をかわしながら、【ゴブリン・メイジ】の観察を続ける。

と、次弾を放とうとした【ゴブリン・メイジ】が急に魔法を取りやめた。

そして、杖を振りかぶりながら襲い掛かつてきた。

どうやらMPが切れたようだ、もう少し魔法の使い方を観察したかったがしょうがない…、そのまま剣で一閃して返り討ちにする。

観察してわかったのは、見ただけじゃ魔法の使い方はわからないという事だけだった。

とりあえず、毎度の「」とく能力を取得する。

取得能力は【料理の才能】

で、今回はレアアイテムもゲットできるらしい。

【解析】を使って、手に入れるアイテムを決める。

俺は3つあるアイテムの中から【従魔の宝珠】というアイテムを選んだ。

見た目は黒い「」ぶし大の水晶玉で、表と裏に対になるように金色の鉢がついている。

このアイテムは、投げつけてあてる事によってモンスターを自分の僕にできるらしい。

ふふふ、これで【ゴブリン・メイジ】を僕にして魔法を教えてもら

うんだ！

喜び勇んで次の階層へと進む。

拠点部屋には1階の部屋の隣に、大理石製の大きな風呂が追加されていた。

香料の入ったたいにおいのするお湯が、じんじんと湧き出で湯船を満たしている。

随分と豪華なものが追加されたなあ、つい入り浸つてしまいそうだ。とか、考えつつも【ゴブリン・メイジ】を僕にするために次の階層の探索に出る。

しばらく歩いてみると【ゴブリン・メイジ】を見つけた。
さっそく【従魔の宝玉】を投げつける、【ゴブリン・メイジ】君に決めた！ ついそれは出す方が…。

【従魔の宝玉】は【ゴブリン・メイジ】の頭にあたった後、ゴトロと地面に落ちた。

これで、この【ゴブリン・メイジ】は俺の僕になつたのだろうか？

「やあやあ、今日から君の主人となるシロウだ、よろしく！」

とか言いつつ、さわやか風味に笑顔をふりまき、近づいていってみる。

と、【ゴブリン・メイジ】は魔法をぶつ放してきた、心なしか怒つてるよに感じる、頭にたんごぶできるし、まあ、こいつら感情がないようなものだから俺の心情がそう見せてるだけだろうが。とりあえず、主にいきなり魔法をぶつ放したりしないだろう。

弱らせないと駄目とか条件があるのでどうが？

とりあえず、弱らせてから【従魔の宝玉】を使ってみるか…。

というわけで、弱らせるために、近づいて剣を使わずに拳で殴る。

何発か手加減したパンチを入れたらグッタリしてきた。

なんか、酷いことをしている気になってきたが、かまわず【ゴブリン・メイジ】に【従魔の宝玉】を投げつける。

今回も玉は【ゴブリン・メイジ】にぶつかった後ゴトリと地面に落ちた。

グッタリしながらも、いまだに俺に襲い掛かってこようとしているから、僕にはなってないと思う。やけになつてグリグリと玉を押し付けてみたりしたが効果はなかつた。

むう、何がいけなかつたのだろうか？

【従魔の宝珠】に再度【解析】【】を使ってみる。

説明をよく確認していくと最後に『ただし、INTが50を超えるモンスターには効果がない』とあった。

…Ohuuuu

【従魔の宝珠】使えねえ！つてか僕にできる条件満たすの【養殖人間】くらいしかないじゃねえか！

とりあえず、このグッタリしている可哀想な【ゴブリン・メイジ】を倒すことにする。

心情的にはこのまま、見逃してやりたいが、どうせ見逃そうとして
も襲い掛かってくるだろうし。
せめて、苦しまないよつと殺してあげよつ…。

少々いたたまれない気持ちになりながらも、剣で斬り倒す。

【ゴブリン・メイジ】を倒した後には、杖と本が置かれていた。

本のタイトルは魔術入門書。

とりあえず、魔法を覚えるといつ目的は達せそうだが、なんだか身
も蓋もないというか。

納得がいかないというか、何だかなあ…。

それと、この【従魔の宝珠】しまつておくか…、【養殖人間】じゃ
僕^{しきべ}にしても盾の代わりにもなりやしない。

今回はハズレを引いたなあ。

1-4 話題のまとめ（後書き）

さて、役立たず認定された【従魔の宝珠】ですが、これが後に意外なところで役にたつたりする伏線があつたりなかつたり。

次回は延々と魔法の説明が入ります。

読み飛ばしても話の筋はつながりますので、飛ばしていただいても問題ないかと。

ちなみに、藤袴は「いつの説明は読み飛ばすタイプです。

1-5 話のペース（記憶も）

一日一話のペースが維持できなかつた…
これから、更新ペースはちょっと落ちるかもしねいです。スマスマ
セヌ m) — — (m

さて、一度拠点に戻ってきて、魔術入門書を読むこと数時間。魔法の使い方が、だいたい解ってきた。

なんだか、【魔法才能】が三つ以上のランクの場合、単純に具現化したい現象をイメージするだけでも使えるらしいが、以前に使えたのは、イメージの練り込みが足りなかつたからみたいた。昨日、俺がやつたMPを消費して行う、鍛冶や縫製と原理は一緒だそうで…、あれも三つ以上ランクがないと使えないし、イメージが明確じやないとうまく練成できなかつたしな。

で、【ゴブリン・メイジ】が行つていた杖をフリフリすると、もによもによ言ってた奴だが。

三つ以上の【魔法才能】がない場合、魔法を使うのに一定の手順が必要になるそうな。

まあ、鍛冶で武器を作るのに、鋼を熱して、ハンマーで叩いて、とかするのと一緒だな。

んで、その手順というのが、まず魔法の発動体を手に持つて印を刻む、これは世界に今から魔法を使いますよー、と合図を送る行為になるそつだ。

合図を送らないと世界がびつくりして、魔法の発動に抵抗してしまつらじー。

発動体は、杖とか指輪とか色々あるらしい【「ブリン・メイジ】が使っていたのは杖だな、後、ドロップアイテムの杖が発動体だった。開始する合図の印は、自分がこれは魔法の開始する合図だ!、と認識できればなんでもいいらしい、三拍子を刻むとか、指で円を描くとか。

ただし、印をほいほい替えると認識に齟齬が出て、うまく魔法が使えないくなる可能性があるので、一度決めたら替えないほうがいいらしい。

次に魔力を練りつつ、発動させる魔法のイメージか呪文式を込める、呪文式というのは俺の感覚だとプログラム言語みたいなものかな？イメージで魔法を使うのは、絵で魔法という現象を表現するのに対して、呪文式を使うのは文章で表現する感じと言えばいいか。

文章は文言さえ覚えてしまえば誰でも寸分違わぬ物ができるけど、絵は描く人によって同じ物のつもりでも違うものができたりします。

まあ、そんな感じなものと思つていただきたい。

最後に発声をして世界に魔法の発動を告知するらしい、これで魔法が発動するそうだ。

【魔法才能】を、持つてゐる俺はこの手続きをすつ飛ばせる。

魔力を練りつつ、明確な魔法のイメージを作つて発動しろーと念じ

るか、呪文式だけ魔力にこめて打ち放つだけでもいい。

ただ、手順をすつ飛ばす分、MPは余分にかかるし威力も少なめになっちゃうらしいが。

本によるとイメージで魔法を使うより、呪文式を使うほうが主流らしい、理由はイメージのみだと発動に時間がかかるからだと成功率が低いからだ。

明確なイメージを思い起こすのは訓練しても結構時間がかかる。

それなら最初から呪文式を覚えるほうが手取り早い、応用力はイメージの方が上なんだが、呪文式は結構なバリエーションがあるのでわざわざイメージ魔法を使う意味がないそうな。

とりあえず、入門書には基本的な魔法の呪文式が載っていたので口イツを使ってみよつと思つ。

拠点部屋にある馬鹿でかい庭で試してみることにした。

とりあえず作法に則つた、方法で使うことにした。

まずは基礎の基礎、【フレイムアロー】

読んで字の「とく、炎^{ほの}で出来た矢^のが前方に飛んでいくそ^のうな。

杖を持つて、印はペントагラムを刻む、魔法といったらこれだらう、んで、呪文式を打ち込んで、発動用の言葉は

「顕現せよーフレイムアロー！」

シンプルイズベストだと思う、長いと大変だし…、魔法名はつい叫んでしまった。

んで、俺の使った【フレイムアロー】はというと…、矢というより槍というかむしろ砲弾？てな感じのものだった。

直径30cm、長さ2mほどある炎の塊が前方に凄いスピードで飛んでった。

次に【ファイアウエポン】

武器に炎の加護を与えダメージを引き上げるそうな、試しに使ってみると剣が燃えた。

刀身が駄目にならないか心配になつたが大丈夫みたいだ、不思議だ
…。

次は【ヒール】

RPGには定番の回復魔法に相当する、パーティーに必ず一人は使える人を入れときたい魔法。

HPを回復し、傷もちょっとだけ直すらしい。

使ってみた所、HPが回復し、やけどの痕^{あと}も治つた。

うーん、便利魔法だな。

他にも色々あるみたいが、あとで試そう。

とりあえず、右手に剣を持ち、左手に杖を持った状態で実践で多用することになるであろう【フレイムアロー】を使ってみる。

杖をフリフリ

「顕現せよー！フレイムアローー！」

杖をフリフリ

「顕現せよー！フレイムアローー！」

杖をフリフリ

「顕現せよー！フレイムアローー！」

3回繰り返す。

うーん、剣を持った状態だと杖が邪魔だな、魔法だけで戦うならいいけど、一人パーティの俺じゃそれは無理だし、指輪型の発動体を【ゴブリン・メイジ】が落とさないかな？

とりあえず、【ゴブリン・メイジ】を狩りに1-1階層に行って見るか。

ザクザクと【ゴブリン・メイジ】を倒していくと、杖はポコポコ落としてくれるんだが指輪タイプの発動体は落してくれない。杖と一緒にしてはいるが色々な種類の杖を落としている、だが、やっぱり杖以外の発動体は落してくれない。

ちなみにレアドロップは魔道書のようで、いくつか新しい魔道書を落してくれた、なかには被ってしまった物があるがそれは自販機で売ろうと思う。

本は同じものを持ってても意味がないしなあ。

（数時間後）

ついに手持ちの杖の数が百を超えてしまった。

これは【ゴブリン・メイジ】は杖以外落とさないんじゃないかと思う。

ドロップしないなら、作ってしまえばいいじゃない！…というわけで、杖を改造して、使い勝手のいい魔法の発動体を作つてみるか…。

一旦拠点に戻り、下のおつきな部屋で改造作業をやってみる事にする。

ごそごそと【無限のポーチ】をあわつ、改造するのに手ごろな杖を探してみる。

【プラチナムタクト】プラチナ製で見た目は指揮棒にそっくりな魔法の発動体だ、こいつがちょうどいい。

これを、鍊金魔法と鍛冶魔法を駆使して形を整えていく。

鍊金魔法とか鍛冶魔法とかいうのは何かといつて、MPを消費して行うアイテムの生成ことをそう呼ぶらしい。

ここには、鍛冶とかの専用の設備がないし、俺も鍛冶の知識とかがないのでこの何々魔法の類を使わないとアイテムの改造とか出来ないのだ。

設備はそのうち拠点に追加されそうだが…、鍛冶の知識は指南書とかモンスターがドロップしないかな？

おっと話しが逸れた、とにかくかなりのMPを消費しつつも【プラチナムタクト】を改造していく。

形は五芒星の意匠を施したコインにする、魔法の発動体としての機能を残しつつコインの形に形成していく、神経も使つしMPも使う。で、これを直接手に持つて使うのではなく、手袋の手の甲の部分に埋め込んで使用する事にする。

そうすれば手を塞がずに魔法が使えるし、見た目もアホっぽくなつていい感じだ！一度こういうの着けてみたかったんだよね。

せっかく、ファンタジー世界っぽいところに来たんだから、アホな格好をしてみるのもいい経験だと思う。どうせだから、手袋も自作してみるか。

というわけで手袋の作成に着手した、まずは手のひら部分と手の甲部分を作ることにする。

防具の【レザージャケット】をばらしてラウムの皮を切り出す、こいつは牛皮に似ていて丈夫で使いやすい。んでこいつを切り出し縫製したうえに、鍊金魔法を使って縫製部分を融合して縫い目をなくし、あまたた皮で指を出す部分を作る。

これでオープンファインガーグローブの出来上がりだ。

鍊金術は分解、融合、変質、精製という元々物理的に無茶なことができるので使い勝手がいい。

鍊金術の説明については機会があつたら話そつ…つて俺は誰に話しかけてるんだ？

こほんっ！

んで、そのままオープンファインガーグローブとして使うのもいいのだが俺の前の世界での常識が「アウト…」と叫んでるので指部分の作成に入る。

アホな格好はセーフだが、オープンファインガーグローブはアウトという理由が俺にもよくわからないんだけど…、とにかくダメなんだ。指部分は動きを阻害しないように、薄くて柔らかくぴったりフィットする素材で作りたい。

防具の中からよさげなアイテムを探す、確か【ゴブリン・ファイタ】が落とした防具の中に…、あつた【アサシンスース】を取り出す、見た目は体にぴったりくっつくレザー製のボンテージだ、絶対装備したくない。

ただし、こいつの間接部分に使われてるのが…シルルプの皮だ。柔らかく薄くて丈夫でピッタリフィットする、手袋の指にはぴつたしだ。

これも縫い付けた後に鍊金魔法を使って縫い目を融合する、MPがゴリゴリ削れているが気にしない。

これで見た目立派な手袋の出来上がりだが、最後に手の甲部分を【ドッグドラゴンの上皮】を使って補強する。

こいつは【ハイドッグドラゴン】のドロップ品だ、凄く丈夫な上に炎に耐性があるらしい。

こいつに、さつき作った発動体を埋め込んで手袋に張り付け、鍊金術を使って下の皮と融合させちゃう。

ちなみに発動体は左手のほうに埋め込んだ、魔法使用中に利き手である右手を空けとくためだ。

完成した手袋を嵌めて、おててをこぎこぎする。いい感じだ、手の動きを阻害しないし、拳を握ると【ドッグドッグ】の上皮【部分が拳けん】を保護してくれるのこれで殴つても拳をいためずすみそだ。剣を手に持つてみると、グリップ力が増して剣を振るのが楽になった。

このグローブは【マジックグローブ】と名付けよう。

そういうば、自作したアイテムは解析をかけるとどうなるんだろう？試しに【マジックグローブ】に解析を掛けてみた。

『【マジックグローブ】 魔法の発動体として使えるグローブ、炎に耐性がある』

おお、【マジックグローブ】として認識されている。しかし、【解析】って一体どう基準で名前を表示したり効果を説明したりしているのかな？

今まで何気なく使っていたが、これは実験してみる価値があるかも。

とりあえず、今日はもう寝るかMPも九割近く削れたらし…、無理に手順すつ飛ばしたりしたからなあ、鍛冶とか縫製の技術書とか専用の工房がほしい所だ。

1-6 話のまとめ（後書き）

一話丸まる、手袋を作る話して…
…いつになつたらシロウは迷宮出れるんだか…

朝起きると、MPは9割程度まで回復していた。

8時間睡眠で、最大MPの8割が回復したという事は寝ると1時間につき1割程度MPが回復するのだろう。

さて、とうあえず今日は【解析】の効果について調べてみる事にする。

とうあえず、田に付くもの全てに解析を掛けている事にする。ドロップアイテムを解析していく…、ジーツ。

解析を掛けている結果、説明文が出るものと出ないものがあるのがわかった。

基本的に武器は名称以外表示されないことが多い、マジックアイテムは詳しい効果が表示される。

防具とか服は材質とかが説明される、食材も詳しい情報が表示されるものが多い。

ふむう、この違いはなんだろうか？わからん。

次に、拠点にある設備を見て行く。

ガスコンロ…、炎を出すマジックアイテムの一種らしい。シャワー…、特に情報なし、風呂…特に情報なし、蛇口…、特に情報なし。

ベッド…、特に情報なし、壁とか床…、特に情報なし。ドア…、空間を跳躍するマジックアイテムの一種らしい、見た目は木製の一般家庭にあるようなドアなんだけどな。

庭に出て、色々見てみる。

地面…、特に情報なし、空…、そもそも対象が特定できない。

太陽…、「田があ！田がああああああ！」

とりあえず情報が出るものとでない物の差は魔法のサムシングであるかそうでないかっぽいが。

それだと食材や服に説明ができる理由がわからない、基本的に食材や服の材質で説明が出るものは、前の世界に存在しないものが多くつたが、魔法物質ではないと思う。

ラウム肉とかただの肉だし、動物の皮や植物の纖維は魔法物質ではないだろう、たぶん。

どうして説明の出るものにバラつきがあるのだろうか？

そういうえば、解析をかけた時、同じものでも情報の内容に違いがあつたよ…。

ん~、よく考えてみると、今まで基本的に俺が知りたいと思つた場合のみ、該当する情報が表示されていた気がする。

…という事は、だ…。

ベッドに解析をかけてみる。

【ベッド】寝るときに使用するもの、食用には適さない
んむ、説明が出た。

今回はベッドに解析をかけるときに、これはどういったものか？食べられるのか？

といった事を”知りたい”と思って解析をかけてみた、結果それに対する情報が得られたようだ。

食材や服に関して説明がされること多かつたのは、食い物や服の材質に対しての俺の興味が高かつたからだろう。

よし、もう一度”知りたい”と思いつつ、色々なものに解析を掛け
てみよう。

まずは、壁とかに掛けでみるか…。

【壁】 煉瓦で出来てている、食用には適さない
いや、別に食べないし、他に情報はないのか？

【壁】 煉瓦で出来てている、食用には適さない、煮ても焼いても味
はかわらない
いや、食べないんで、味とかどうでもいいです。
んー、得られる情報には限度があるみたいだな、何でもかんでもま
るっとお見通しとは行かないみたいだ。
とりあえず色々なものに試してみよう。

色々なものに試してみた結果、やっぱり得られる情報には限度があ
ることが判明した。

それと、この能力、マジックアイテムや使い方のよくわからないア
イテム以外に使うのはあんまり意味がなさそだという事がわかつ
た。

例えば剣に解析を掛けでみた場合、その剣の名称と材質、簡単な使
い方ぐらいはわかるが。

その剣の作り方とか、剣技とかがわかるわけではないのだ。
とはいえ便利な能力であることには変わりはない、モンスターの場
合ステータスとか見れるしね。

とりあえず、解析についてだいたいの事がわかつたので、俺は満足
した。

さてと、解析についてもなんとなあ〜くわかったし。

今日も階層をぼんぼんと進む事にじよつかな、田指せ一田5階層クリア！

とこつわけで、1-1階層のボス部屋までやつてきました。

今回のボスは【ロックゴーレム】で【ウッジゴーレム】の上位互換といった感じの奴だ。

ステータスはこんな感じ。

| | L | V | 1 | 1 |
|-------|---|---|---|---|
| H P | 3 | 6 | 1 | |
| M P | 6 | 5 | | |
| S T | 1 | 2 | 4 | |
| S T R | 3 | 0 | 0 | |
| V I T | 2 | 5 | 0 | |
| D E X | 1 | 1 | 0 | |
| A G I | 3 | 3 | | |
| I N T | 6 | 1 | | |
| R E S | 6 | 2 | | |

まず、慣れていない魔法での実戦なので近づかれないようひい。V I T がかなり高い、代わりにR E S は低めだ。ここは魔法の性能を試すところだらう。

。ひい。

「顕現せよーアースバインド！」

と、地面から足を動かせなくなる魔法を使つ、これでゴーレムは移動出来なくなつた。

発動の瞬間に対象の足が地面に着いてないと意味がないし、相手のRESの値によっては抵抗レジストされて効果が出ない場合がある魔法だが、ゴーレムは總じてRESが低いので抵抗レジストされる心配がないし、その超重量ゆえにジャンプしてかわすとかもできないので安心して使える。

ついでにこの魔法足がないと効かない、人型で動きが遅くジャンプできないゴーレムにはぴったりの魔法だといえる。

そして、移動の出来なくなつた【ロックゴーレム】に遠間とおまから攻撃魔法をぶつ放す。

「顕現せよーフレイムアロー！」

フレイムアローといつには些かでかすぎる炎柱が【ロックゴーレム】に直撃し、ゴーレムは粉々になつた。

【フレイムアロー】強ええ、ほんとに初級魔法かこれ？

まあ、いいか、次の階層に進もう。

ちなみに今回は能力もレアアイテムも貰えなかつた。

今まで貰えたのは、10階層までの初心者サービスだつたのかもしない。

（10時間後）

さて、今日はサクサク階層を進め、15階層まで進んできました。この階層までは特に大したイベントはなかった。

ん~、強いて言つなら拠点には施設が色々追加されてことぐらいかな。

庭に離れが出来て鍛冶場とかの工房が追加されたり、一階にでつかい厨房が出来てたり、洗濯機が追加されたり、厨房にでつかい冷蔵庫が置かれたり。

正直、洗濯機は嬉しかった、今まで服は全部手洗いしてたからねえ。洗濯機はコインランドリーとかに置いてある縦ドラム式のデッカイ奴だった。

あ、あと14階層で倒した【クリーピングブック】っていう見た目まんま本なモンスターが色んな本を落とした。

ちょっとした物語からファッショング雑誌みたいなものに、技術書やら何やら、技術書の類はレアドロップだったな……。

暇なときに読んでおこう、この世界の常識とかわかるかもしないし。

まあ、ここから出れないと常識を知つても意味がないけどね。

さて、そんなことを考えながら歩いていると、ボス部屋へと到着し

たみたいだ。

まわりは、森なのにボス部屋だけ草が生えてない砂地になっている。
まあ、ここにボスを見ればさもありなんと思つ。

ボスは【サンドワーム】というモンスターだった。

たぶん、地面が砂地じゃないこと【サンドワーム】さんは身動き取れないんだろう。
どうも地面にもぐつて動くタイプみたいだし。

【サンドワーム】の見た目はでっかいミミズの頭部を硬そうな外骨格で覆つた感じ?
で、体の半分くらいが砂に埋まっている。

ステータスはこんな感じ。

| | L | V |
|-----|-----|----|
| HP | 3 | 19 |
| MP | 4 | 5 |
| ST | 161 | |
| STR | 231 | |
| VIT | 149 | |
| DEX | 114 | |
| AGI | 66 | |
| INT | 71 | |
| RES | 133 | |

氷属性魔法に弱い

近づいて行くと、固そうな頭を振り回して頭突きをかまして来たので距離をとることにする。

距離をとるヒジリヒジリと寄つてくる、移動速度はあんまり速くなさそうだ。

これは、【ロック】「一レム】 同様遠距離から魔法を使って倒すのが楽かな？

と思つていたら、【サンドワーム】がいきなり地面に潜つた。

潜つたという事は、次に来るのはあれだらつ。

はい案の定、足元から強烈な突き上げをしてきた。

ただ、あらかじめ予想をしていたのにまともに攻撃を喰らつてしまつたのは誤算だった。

HPに50のダメージだ、高レベルじゃなかつたら死んでたかも。俺に強烈な突き上げを食らわした後に【サンドワーム】はまた地面に潜つた。

どうやら 潜る 突き上げをする 潜る 突き上げをする を繰り返すつもりのようだ。

これはまずいかも。

地下からの不意打ち攻撃はものすごく避けづらい。

そつそつかわす事はできないだろう、しかも潜つてゐる間はこひらから攻撃できないので、必然、突き上げをしてきた所を狙い、相手の攻撃をかわした後にこちら攻撃をあてなければならぬ。

それにさつきの攻撃でHPが1割減つてゐる、10発攻撃をもひつたら THE END な計算だ。

10回の間にかわして攻撃をする事をマスター出来るとは思えない。

これは、実戦で使うのは結構不安があるが、あの魔法を使うしかないか…。

「顕現せよー・フライトー。」

【フライト】魔法は文字通り、空を自在に飛び回る魔法だ。ただ、結構高位の魔法らしく扱いが難しい。

並みの魔法使いでは成功させるのがやっとで、熟練のそれも才能のある魔法使いじゃないと自在に飛びまわるとはいからしい。実際俺もフライフライと浮かび上がるのがやつとで、自在に飛びまわるとは言えない。

幸い【魔法才能】のおかげか、練習すればうまくなりそうな感触があるが、今はまだ実戦では使えないレベルだ。まあ、今回は【サンドワーム】から距離を取ればいいので空中に浮かんでさえ居ればそれでいい。

落ちさえしなければな……。

さて【サンドワーム】だが、砂から顔を出して潜るを繰り返している。

俺に攻撃をくわえたいが、こっちが空を飛んでいる所為で攻撃する手段がないようだ。

とりあえず、潜る、顔を出すを繰り返してこちらの様子を伺っているのだらう。

しばらく観察をしていた結果、顔を出すタイミングが読めてきたので、それに合わせて魔法を打ち込むことにする。

確かこいつは、氷属性の魔法に弱いんだよな……。よし、こいつを使うか。

「顕現せよー、アイスニードル！」

【サンドーム】が顔を出したといふと、ニードルといふにはあまりにも巨大すぎる氷柱を放つた。

【サンドーム】は氷柱が突き刺さりつた後、そのまま凍りつき粉々に砕け散つた。

粉々になつた氷はキラキラと輝き、小さな虹を作り出した。

さて、お楽しみの能力ゲットタイムです。

11階層から14階層は能力もアイテムなかつたが、15階層は両方ともゲットできるらしい。

まずは能力から、今回のラインナップはこんな感じ。

【MP消費軽減】

【彫金の才能】

【大食い】

なんか、変なのが混じってるんだが…。

思わず取得しそうになつてしまつたが、ここは【MP消費軽減】が妥当だろう、これがあれば道具作成の効率も上がるだろうし、魔法つて結構使うしな。

【ピロリン、シロウは【MP消費軽減】の能力を手に入れた。】

正直【大食い】にかなり興味あるんだが…、能力は一旦取得しないと効力がわからないからなあ。

大食いはマイナスな面も有りそつだし、取得するのはやめといったほうがいいと判断した。

興味はあるんだが。

ちなみに【MP消費軽減】の効果はMPの消費量を半分にする事だつた。
素敵な能力だ。

で、ゲットしたアイテムなんだが。

【転生の書】

使用するとLV1に戻り、現在のステータスの10分の1が基礎能力に加算される、また、それまでの行動によって転生後に才能が新しく付与されることがある、転生後は現在の肉体年齢以下で6歳以上なら好きな年齢になれる。

【聖剣ハードチップ】

全てを切り裂く聖剣、この剣を使うものは必ず勝利をつかむとされている。

【豊穣のスコップ】

どんな荒れ果てた土地でも豊饒の大地に変えるマジックアイテム、うまく使えば砂漠を森林に変えられます。

皆はこの三つからどれを選ぶ？

俺は【転生の書】を選んだ。

聖剣は名前が微妙だから無しとして【豊穣のスコップ】は惹かれるものがあつたが。

ここは【転生の書】を選ぶだろつ、俺は『LV1に戻つて基礎能力が上がる』とか聞くとわくわくするタイプだしな。
ドラ工?には嵌つたなあ、転職システムがいいんだよねえ。

と、いうわけで拠点部屋に入つて早速こいつを使つてみると、使い方は単純に本を読めばいいらしい。

本を開いて田を走らせる、なんだかよくわからない文字列が並んでいるが、かまわす田で追っていく。
しばらく田で文字の羅列を眺めていると、本と自分の体が輝きだした。
そして頭の中に音声が響いてきた。

【転生後の年齢を決定してください】

…そこにはシステム的なのかよ！ガクッときちゃうだろ！
とりあえず、年齢は15歳を指定する、特に意味は無い。

【転生を開始しますよろしいですか？】

＜Y e s＞ ＜N o＞

＜Y e s＞ を選択する。

ポンッ！

と音がした後。

【条件を満たしているので以下の能力が付与されます】

【剣の才能】

【戦士の才能】

【鋼鉄の精神】 はがね

【孤軍奮闘】

【弱い者虐め】

【転生は無事終了しました】

といつ、アナウンスっぽいものが流れた。

どうやら、無事に終了したらしい。

なんだか体が小さくなつた気がする、ステータスを確認するついでに鏡で見た目を確認しよう。

鏡で自分の姿を確認してみると、ちょっと背が縮んだように見える、3~4cmくらいは減つたかな？

服も鎧もサイズが合わなくなつて、それほど体が縮んだわけじゃないから、ずり落ちるほどではないけどね。

元が168cmだったから今は164~165cmって所か、見た目も少し線が細くなつて少年ぽくなつた。
ふむ、まあ、悪くは無いか…。

あとLV1に戻つてゐるのが確認できた。

現在のステータス

NAME シロウ

| | |
|-----|-----|
| LV | 1 |
| HP | 171 |
| MP | 208 |
| ST | 176 |
| STR | 204 |
| VIT | 210 |

| | |
|-----|-----|
| DEX | 176 |
| AGI | 229 |
| INT | 242 |
| RES | 187 |

うむ、初期能力値がちゃんとあがつていいな。
それに新しく手に入れた能力も気になるがどんな感じのものだろうか。

まず【剣の才能】はその名のとおり剣を自在に扱う才能らしい、
ひとつだと一流レベル。

因みに【クリーピングブック】からゲットした本に書いてあつたんだが、能力のは1個で一流、2個で天才、3個で英雄、4個で人を超えたレベル、5個で神に達するレベルらしい。

人間の限界は3つと言わてるらしい、俺は初期の段階で5つの能力を持つていたが…、まあ、そんなことはどうでもいいか。後、特に【】の才能を持つてなくても、適正がまったく無いかというとそなではなくて【魔法才能】がなくても努力すれば魔法は使えるらしい。

覚える効率とか威力は才能持ちは落ちるらしいが。

んで、二つ目の【戦士の才能】は戦闘に関する才能らしい、戦闘が得意になるらしい。

【鋼鉄の精神】は強靭な精神力によつて全ての精神攻撃に耐性を持つそだ、魅了とか睡眠攻撃とかに対しても抵抗しやすくなるみたい。

【孤軍奮闘】ひとりで困難を克服する力、多数の敵に囲まれたと

きステータスが上昇するそうな、RPGの能力っぽい。

【弱い者虐め】自分よりレベルが低い敵に対しても与えるダメージが増加する、判りやすい能力だな。

転生で得た能力は大体こんな感じだった。

とりあえず今田は若干緩くなつた服や鎧を手直ししてもう寝るとするか…。

ステータスも下つた事だし、明日は一旦したの階層に戻つてどれだけ戦えるか確認しなおすかな？

それとも、魔法の練習でもしようかなあ、意外と魔法を使う機会つて多いし、魔法は便利だ。

とりあえず、11～15階層でレベル上げをしてたら半日でLV20まで上がった。

| ステータス | NAME | シロウ |
|-------|------|-----|
| LV | 20 | |
| HP | 207 | |
| MP | 273 | |
| ST | 212 | |
| STR | 249 | |
| VIT | 242 | |
| DEX | 222 | |
| AGI | 280 | |
| INT | 278 | |
| RES | 226 | |

以前4階層でレベル上げをしていた時はえらい時間がかかったが、あれは【養殖人間】の経験値的なものが激少だからだつたんだろうと思う。

ちなみに本による知識なんだが、レベルってこんな短期間で上がるもんじやないらしい。

たぶんだけど、この迷宮に経験値取得量を増やす仕掛けとかがあるんじゃないかと思う、検証の仕様が無いので推測しか出来ないが。

まあ、それは置いといて。

思つたより成果が上かつたので今田の半後は魔法の練習に当つようと思つ。

これからは剣だけだと厳しくなつてきたり、魔力を多用することになりそうだ。
練習として損は無いだろ？

夜、寝る前にちょくちょく読んでいた魔道書に魔法式応用編つてのがあってまずはそれを試してみようと思つ。

最初に『応用編威力強化』を試すことにする。

まず、魔法を使うときには魔法式つていう一種のプログラミングを使つてるわけだが、威力強化つてのは単純に各種魔法の魔法式の最後に威力を強化する魔法式を追加する事によつて威力を5割増しにすることだそうな。

その分消費するMPが倍加するらしいんだが、試しに【フレイムアロー】を使ってみよう。

まず魔法の練習に最適な、拠点にある広い庭にでる。そして、標的にいくつか案山子を作つて置いておく、簡単に壊れないように【フレートメイル】も着せて…と。

まずは普通に【フレイムアロー】を使ってみる。

直径1cm、長さ1mの炎の矢が標的の案山子に飛んでつた。
ドローン！と標的である案山子に当たり鎧ijoと案山子を吹つ飛ばし
た、鎧着せた意味がねえ〇rn。

ちなみに、前より威力が落ちてるのは転生してステータスが下がった所為だ。

次に魔法強化を使ってみる、さつき出したものよりちょっと大きい炎の矢が標的に当たりやっぱり標的を吹っ飛ばした。

うん、ちゃんと威力が上がってるみたいだな、よしよし。

威力強化は重掛けができるので、1・5倍、2・25倍、3・375倍、5倍（計算がめんどいので端数は略）、と威力を増やしていく。

その分消費MPが、2倍、4倍、8倍、16倍、と増えていくわけだが…。

とりあえず、4倍掛け試してみるか…。

試しに4倍掛けを使ってみたところ、LV95の時に出したような砲弾みたいなでっかい【フレイムアロー】が飛んでった、そして鎧付き案山子を蒸発させた。

さらに俺のMPが半分にまで減った。

【フレイムアロー】は初級魔法の癖に、1発あたりMPを12も消費するからな【MP消費軽減】があるから消費MPは半減するが今ので192の半分の96もMPを消費した。

今日はまだまだ魔法を使いたいし【マジックポーション】を使うか。1本10万円する【マジックポーション】を10本ほど飲んでMPを回復させる、ちょっとブルジョワジーな気分。

栄養ドリンクのような甘ったるい味のする、飲物を10本連續で飲むのはちときつかったが。

さて、次は何を試そうか…。

次は魔法の複数化を試してみるか。

こいつは魔法の対象の数を増やす事のできる補助魔法式だ。

例えば通常一本しか放てない【フレイムアロー】もこいつを使えば一本以上同時に放つことができる。

威力強化同様に一本増やす」とにMPの消費が倍化するんだが…。

MP消費の事を考えると単純に3回【フレイムアロー】を使ったほうが効率がよさそうだ。

まあ、物は試しだこれも使ってみるとこじよつ。

実験用の【フレートメイル】着用の案山子を4体置いて…。

「顕現せよーフレイムアローー！」

4本の火矢がそれぞれの鎧案山子に飛んでゆき、4つの鎧案山子を吹き飛ばした。

うん、これは普通に範囲魔法使つたほうが効率が良さそうだ。

範囲魔法の【ファイアストーム】の5倍くらいMP消費してくるからな。

味方と敵が混戦状態だけど複数の敵を攻撃したいって時だつたら役に立ちそうだけど、俺、一人だし、仲間いないし…。

…よし、次は鎧を着ている時と脱いだ時の魔法の威力の違いを試そう。

本によると、金属と魔法はあまり相性が良くないそつだ、特に鉄は駄目。

鉄製の全身鎧…例えば【フレートメイル】なんか着込んでいると魔

法なんか使えるか…って状態になるらしい。

ただ、魔法と相性がいい金属もあって例えば、プラチナ、銀、ミスリル、なんかは相性がいいので魔法の発動体に使われる事もあるらしい。

そういうえば、俺の発動体はプラチナだったな。

基本的に魔法使いが軽装なのは、こういう理由がだからだそうだ、まあ、後は魔法職を専門にしている連中はSTRが低いから重い鎧が着れないってのもあるらしいが。

能力値の成長はそいつの普段の行動に結構影響されるらしい、剣を振つてる奴はSTRが上がりやすいし、魔法を使ってる奴はINTが上がりやすいとか。

んで、魔法戦士と呼ばれる剣も魔法も使うタイプの戦士はミスリル製の鎧か革製の鎧を使うらしい、ミスリルは高いので革製の鎧を使う奴がほとんどらしいが。

んで、現在俺は【ブレストアーマー】っていう鉄製の鎧を着込んでるわけだが、こいつは胸部しか覆つてないのでそれほど影響は無いと思う。

とりあえず試してみるけどね。

とりあえず、また【マジックポーション】を飲んで…と。

今日一日で200万cmが飛んでいったな、ちょっと勿体無いか?
?まあ、いいか金は余ってるしな…。

鎧を脱いで【フレイムアロー】を使ってみる、結果若干威力が上がって魔力を練る速度も上がったような気がするが、予想通りそれほど影響は無さそうだ。

次に【プレートメイル】を着て魔法を使ってみる事にする、この【プレートメイル】って鎧は鉄でガチガチに固められた、The knightって感じの鎧だ。

ちょっと動きづらいので、あんまり使わないんだけどね、俺の戦闘スタイルは『当たらなければどうという事はない！』だから。で、魔法を使ってみたんだが、超使いづれええええ。

魔力を練るのがすごい大変で、練りあげるのに10秒くらいかかりた。

しかも威力も下がって、【フレイムアロー】がミニキャラットみたいな大きさのへろへろ矢になつてた。

結論【プレートメイル】を着込んでの魔法行使は自殺行為だ。

さて、実戦的な魔法の実験＆練習はここで一旦置いといてだ。

ちょっと息抜きをしてみようと思つ。

ここからは、シロウのちょっと気になる魔法のコーナーの時間だ。

まずは一発目【ハンドレスラフ】

この魔法は対象を見えざる手でくすぐるという魔法だ、効果は3分間。

何の役に立つか判らないが使ってみたくてたまらない。

ただ、試す相手がないので自分に使ってみるしかない、迷宮のモンスターに使うのもどうかと思つし。

「顕現せよ—エンドレスラフヤーはつはつはーつつうひーひやひやひやあへあへうひはーうへへへー

～3分後～

「はあはあはあ、ぜえーぜえーぜえー」

「」この魔法は危険だ、笑い死ぬかと思った。

意識が集中できないから魔法の効果を打ち消す【ディスペルマジック】も使えなかつた。

ふうー、今度人型のモンスターに使ってみるか？結構えげつないぞこの魔法。

では、次【ボイスチェンジ】

自分の声を好きに変えられるらしい、効果は10分間。

「顕現せよーボイスチェンジー！」

うむ、これで声が変わつたはずだ、どんな声にえたかは秘密だ。

おお、完璧だ！完全に某声優さんの声に変わつてゐる。
ためしになんか言つてみよつ。

「あー」

「「うぬわこつーー うるわこつーー うぬわこつーー」

「」の変態つ！ ド変態つ！ de変態つ！

「「Jの犬つ！ エロ犬つ！ スケベ犬つ！」

どう見ても、誰の声に変えたかまるわかりです、本当にありがとうございました。

その後、効力が切れるまでたっぷり堪能した。

この後も、色々な変な魔法を試してみた。

【スピング】物体を回転させる、対象は非生物のみ、効果30分。

【ウォールウォーキング】重力の方向を無視して、足の裏がついてる位置を元にして動ける、効果3分。

【サイドビジュン】自分の左右に自分の幻影を出現させる、効果3分。

【フェイスチェンジ】自分の顔を好きな顔に変化させる、効果10分。

たっぷり面白魔法の効果を試した後には、眞面目に魔法の練習をして過ごした。

まじで、この迷宮何階層まであるんだろう…と考えてこるシロウです。

あまりにも自分の名前を呼ばれないのとそれなりの名前を忘れそうなシロウです。

あれからさらに数年経つて、現在100階層目を攻略中だ。LV100まで上げた後にもう一回転生して更にLV200まで上げた、見てよこのステータス。

| NAME | シロウ |
|------|------|
| LV | 200 |
| HP | 4050 |
| MP | 6452 |
| ST | 4250 |
| STR | 4856 |
| VIT | 4355 |
| DEX | 4857 |
| AGI | 6053 |
| INT | 6255 |
| RES | 4258 |

ちなみに現在の外見年齢は15歳だ。

90階層過ぎたあたりから急にモンスターが強くなつてこんなぐらいステータスがないときつくなつてねえ。

全身オリハルコンで出来た体長30mのドラゴンとかでてくるんだぜ？

もう大変だったよ。

取得した能力については機会があつたら説明しよう。
能力とアイテムのボーナスつて20階層を過ぎた所から、10階層
ごとになつたんだけどそれでも数があるからな。
転生で取得したものとかもあるし。

そういうえば、能力とアイテムのボーナスは10階層ごとになつたん
だが、拠点は毎回増築されているみたいで拠点部屋は凄い事になつ
てる。

もはや、俺には何処に何があるのかほとんどわからん。

この前、拠点の庭から【フライト】で飛んで外観を見下ろしてみた
んだが、山みたいな超テッカイ城が空飛ぶ巨大な島の上に乗っかつ
てる感じになつてた。

もはや、ラピュ というよりアルビ ン大陸みたいな感じ？
何気に湖とか森とかあるし。

まあ、その話は置いといて、100階層目を攻略しますか。

とりあえずどう見ても伝説級のモンスター達（無駄に大きい）を難
ぎ倒しながら進んで行く。

このステータスどもはや力技だけで進める、実は前の階層も1時
間くらいでクリアした。

一応必殺技とかもあみ出したんだけなあ、強化しそぎたか。

と、そつやつて進んでいくと高さ50mくらいの重厚感のある、両開
きの扉の前に出た。

材質は石かな？悪魔っぽいものとか天使っぽいもののレリーフが掘
られている、ローマとかにありそうな感じ。

そういえば、今まで迷宮に扉ってなかつたよな。

とりあえずノックしてから入るか、一応礼儀は守るぞ。

「ノンノンー。

「どうぞ」

ええええええええええーっ！ 何か返事が返つて来たーーこの迷宮来てから初めて話しかけられたよ。

扉についてる悪魔のレリーフの目が怪しく光つて動いているとか、ゴゴゴとかいいながら扉が勝手に開いていく事とかよりコッちのが衝撃的だよ。

とりあえず、扉が開いたので入つてみるとさう。どうぞって言われたしな。

「お邪魔します。」

と入つていいくとローマの神殿みたいな厳かなつくりの部屋の中に、金髪のねーちゃんがいた。

なんというか、こう、テンプレートな女神様つていう感じのお人で真っ白なローマ風のドレス、えーと確かにトーガつてやつだと思うがそれを着てたたずんでいた。

「始めてまして、私はこの迷宮の管理者です。」

「かんりしゃですか…」

なんか、管理者きたけどどうしよう？ 不法侵入で訴えられたりしな

いかな？

「私の使命は神に選ばれし勇者に試練を『え、育て、導く事』
そうですかあ、つまり此処は勇者専用テーマパークみたいな物なん
ですね、わかります。

「よくぞ、ここまでたどり着きましたね、神に選ばれし勇者よ
「へ？」

「へ？」

「貴方が此処で得た力を使えば魔王を倒すことが出来ましょ」

「ええ？俺が勇者ってこと？それは、ちょっと遠慮したいなあ。
とか、思つてると金髪ねーちゃんが急にこらえきれないところよ
うに笑い出した。

「…くふふふふふ、あーはははははー、なーんてね、せつかく
試練を乗り越えて此処まで来たのに残念だつたね、ゆ・う・しゃ
わ・ま？」

あれ？この金髪ねーちゃん急に雰囲気が変わったんですけど、やつ
は訴えられるのか俺？

とか思つていると雰囲気の変わったねーちゃんが、バツーとその場
から飛び退つた。

「捕縛しろー・ジエイル・トラップ・ビーストー」

とこの叫び声を上げたかと思つて、鉄格子っぽい物が俺を取り囲んだ。

檻の外からねーちゃんがいやーな感じの笑みを浮かべながら話しかけてきた。

「さー、君はどんな命乞をするのかな?せいやー無様なさまを見せて、私を楽しませておくれよ?」

命乞いとかそれ以前に急展開すぎて付いて行けないんだがどうしよう?

とこ「うか、神に選ばれたとか勇者とか意味不明すぎて自分の命よりそつちのが気になるわ!」

とはいえ、まずは艦を剣で斬り付けるみるか。

ガイーン！

と大きな音がしたが傷一つつかない。

ガンガンガンガンッ！

何度も斬りつけてみたが、まったく効いている様子が無い。
剣が駄目なら魔法だ！とばかりに魔法を連発するもこちくもまったく効いてない。

収束して放つ超強力貫通式【ファイアーアロー】とか放つてゐるのに
ノーダメージってどういうこと？

オリハルコンドラゴンすら一発で貫き殺す威力とかあるのに。

仕方ないので金髪ねーちゃんを直接攻撃しようとしたら、全部艦に
阻まれた。

こいつ、動くぞ？

「無駄無駄無駄だよ？今、君を捕らえてる【ジエイル・トラップ・
ビースト】は勇者を捕らえるために作った特別製だ、HP、DEF、
RESのみに集中して極限まで強化してあるからねえ、いくら攻撃
しても傷一つつけられやしないよ？」

ん~、確かに攻撃は無駄っぽいな。

「ふふふ、それより、ようやく試練を乗り越えて魔王を倒しうる力を得たにもかかわらず、志半ばで死ぬ気持ちはどうだい？悔しいかい？ねえ？悔しい？」

「いや、そもそも魔王とか勇者とか何のことだかわからないんだけど…、つていうか迷宮の管理者のあんたつて勇者育てるのが仕事なん？」

「？？？何を言つてるんだい？神の説明を受けているんだろ？」の迷宮は神々の張つた結界に護られているから、神の許しなく入つてくるなんて不可能のはずが、とぼけて一般人を装つても無駄だよ？」

…もしかして【結界無効】の所為か？確かに5つだと神に達するレベルらしいし、神の結界を無視して迷い込んだんじゃ…。

「それにしても、神の連中はなんで君なんかを勇者に選んだんだろうねえ？成長限界は10という人類最低レベル、基礎能力値は一般人レベル、おまけに戦闘技能も持つてない、およそ勇者には向かないタイプだと思うんだがねえ？」

それは、たぶん俺が神に選ばれた勇者じゃなくて偶然迷い込んだ一般人だからです。

それと俺のことモニターでもしていたのか？暇なやつだな。

「俺のことモニターしてたのか？暇なやつだな」

声に出しちゃった。

「4階層くらいまでは見ていたよ？そのあと同じ場所から動かなか

つたから飽きて見るのやめたけどねえ？」

しかも答えてくれたよ。

まあ、確かに4階層で数十年足踏みしてたからね。

「だけど、随分と育つたみたいだね？歴代の勇者の中でも最強クラスじゃないかねえ、今までの勇者は君みたいに何十年もかけてレベル上げをしたりしていなかつたからねえー、こんなに時間をかけて良かつたのかい？」ここに来るやつらは皆急いでいたけど、まあどうみち此処から生きてることは出来なかつたんだけどねえ

時間とかは考へてなかつたな、そもそも出でられるかもわからなかつたし。

「君は嫌に冷静で面白くないねえ、そつだねえ、何かおもしろいことを言つておくれよ、気が変わつて助けてやるかもしれないよ？」

と、言われても、俺は芸人じゃないしなあ、まあ、だんまりもあれだし気になつた事を聞いてみよう。

「面白くは無いけど質問がある、何で勇者を殺しまくつたん？」

「迷宮の管理者ってのは娯楽が無くてねえ、お高くとまつた勇者様たちの悔しそうな顔を見るぐらいしか面白い事が無くてねえ、それに魔王何ざほつといても何とかなるもんか、別に勇者が倒さなけりやならないとこつわけでもないのや」

俺の空氣読まない発言にわけやんと答えてくれるんだな、律儀なやつだ。

「悪趣味だとは思つが納得した」

「ふう、君は面白くないねえ、そろそろ殺してしまおうかね？他の勇者達はいろいろ面白い様を見せてくれたのにねえ」

「うーん、涙と鼻水流しながら命乞いするつのはちょっとと考えたけど許してくれなさそうだしなあ。
俺は無駄っぽいことは基本的にしないのよ。
殺されるのは嫌だし、なんか打開策を探してみるかな？
とりあえず、金髪ねーちゃんに解析をかけて見て……と

| | |
|-----|------|
| LV | 100 |
| HP | 1288 |
| MP | 1148 |
| ST | 842 |
| STR | 624 |
| VIT | 852 |
| DEX | 912 |
| AGI | 845 |
| INT | 1333 |
| RES | 1211 |

うーん、こいつ自体はそれほど強くは無いな……。

ん？LVとステータス以外の解析ができないな、俺と同じく解析をレジストする能力でも持つているのか【能力隠蔽】とか……。
まあ、こいつのことはいいか、問題は【ジェイル・トラップ・ビースト】の方だなこいつのステータスは。

NAME ジエイル・トラップ・ビースト

LV 1000

| | |
|-----|---------|
| HP | 3000000 |
| MP | 30 |
| ST | 30 |
| STR | 30 |
| VIT | 300000 |
| DEX | 30 |
| AGI | 30 |
| INT | 30 |
| RES | 300000 |

うわあ、LV1000とかDEX、RES、HPが30万とか超無理ゲー。

ダメージが通るわけ無いよな…って…あれ?
このステータスって…。

「ちょっと質問があるんだけど…答えてくれたら面白いことがあるかもよ?」

つて言えば答えてくれそうな気がする、この金髪ねーちゃんおしゃべりだし。

「なんだい、言つていいひと?」

うん、食いついた。

「LJの迷宮で得られるボーナス能力とアイテムつてあんたが決めるの?」

「そんな事が知りたいのかい?まあ、答えてやるけどねえ、あれは迷宮が君の欲しがりそうなアイテムを勝手に用意しているだけさ、

私は関係していないよ?」

なるほどねえ、俺が何を持つてるかまでは知らないって事か……じゃあ。

「これが何か知ってる?」

【無限のポーチ】からあるアイテムを取り出して聞いてみた。

「なんだい、それは? 黒い水晶玉?」

はい! 知らないと見た! 解析を使われる前に即効使います!

「ここにはいつも使つんだ!」

俺は黒い水晶玉こと【従魔の宝珠】投げつけた!
囮まれてるのでどこに投げても【ジェイル・トラップ・ビースト】にあたります。

【従魔の宝珠】は【ジェイル・トラップ・ビースト】にあたつた後に粉々に碎け散り、その破片が【ジェイル・トラップ・ビースト】へと吸い込まれていった。

ドクンと心臓がなり、体がぽかぽかしてきた、そして【ジェイル・トラップ・ビースト】と何か見えないものでつながったような感覚を覚えた。

これで【ジェイル・トラップ・ビースト】は俺の僕になつたのどう【ブリンクメイジ】の時と違つて今度はちゃんと実感がある。
まあ、とりあえず

「そいつを捕縛しろ! ジェイル・トラップ・ビースト!」

と命じた。

【ジロイル・トラップ・ビースト】は俺を解放すると同時に金髪ねーちゃんをその体の中に捕らえた。

「な、な、な

金髪ねーちゃんは驚いてるようだが俺も驚いている。
こんなに簡単に形勢逆転できていいんだどうか？

ここまできままで勇者を倒してこれたな。

そして、この後どうしようか？

とつあえず【ジョイル・トラップ・ビースト】の支配権を取り戻されたらたまらないのでエントを上げておく事にする。
迷宮の管理者だし【徒魔の宝珠】を作り出すとかできるかも知れないしね。

ほんぽう本邦初公開その名も【アホのましになる薬】だ！

こいつを使うと一個でエントが1～3上がる、エントが100以上になると効かなくなるんだが。

こいつを20本ほどブツ「む！」

【徒魔の宝珠】って簡単に対策が取れるんだよなあ、まあ、金髪ねーちゃんは【徒魔の宝珠】の事知らなかつたみたいだし、対策とつてなかつたのはしようがなかつたか？

で、とつあえず対策もとつたしまずやる事と言つたら…。

「エリから出るにはどうしたらいいか教えてくれない？迷宮はそろそろ飽きてきたんだ、今の自分の立場はわかってるよね？」

とつあえず、迷宮を脱出したいのだが、うん。

「な、私をどうする気だい？」

どうする気も無いな、利用価値がある間は殺したりもする気はないし。

「俺に従つているだけは何もしないよ？まあ、言ひ事を効かない場合は…どうしようかな？」

にたまり と悪戯つに見える笑みを浮かべてみる。

「は、ま、まさか、私のことを慰み者にする気じゃ…、私は人間では足元にも及ばない美貌をもつてているから…」

そんな事は一言も言つてないしする気も無いんだが…、といふか今は出口の話をしてるんだけど…。

とか思つてゐるつたりにこの金髪、勝手に盛り上がりこなす。

「私を して であまつさえ で にした
り、××××を する気なんだね！」

「いや、俺は出口を聞いて「まさか に を する気
じゃー?」「

「だからでぐ「××××を に まで?」の変態ー。」

イラッ ミ

「ジョイルトラップビースト回転しろ」

俺の命令を受けて【ジョイル・トラップ・ビースト】が縦向きに回転を始める。

【ジョイル・トラップ・ビースト】の中にいる金髪ねーちゃんは床が壁に壁が天井にと地震なんか田じゅねーぜといった状態になるわけだ。

「や、やめ、何をするんだい！」

といわれてもやめずに、しばらく回転をさせ続けた結果。

「ハハハ、や、気持ち悪い…」

と、顔を真っ青にしてへばつてきた。

とつあえずこの辺でやめておく、汚いものを見たくもないし…。

「出口を教えてくれるかな?」

「わ、わかった、教えてやるよ、やこの扉の奥に魔法陣がある、そこから出られるよ」

言われてみると隣っこの方にみずぼらしい木製の扉があつた、あの扉の奥から出られるのか…、なんかさんざん苦労して最後があの扉って言うのはどうだらうか?

演出に手え抜きすぎじゃないか?

ま、いっか?

よし、これで迷宮をクリアだ! 姿婆に出んぞお!

おつと、その前に。

「ジョン・イル・ラッピービースト! 僕が死んだのを確認したらそいつを殺せ、後、俺がいいとこつまで何があつてもそいつの捕縛を解くなよー。」

これでよし、俺が死んでもこいつが野に放たれることはなくなつた。

「ちよ、ちよと待ちなよ、このまま私を放置して行く気かい?」

たまに帰つてくるかも知れないけど基本放置だな、相手するの面倒くさこし。

とこつか殺される事より放置の方を気にするのか? 寂しがりやかこ

いつま?

「ん~? じゃあ俺が放置したくなるよつにしてみたら?」 訳:
なんかいこものよこせ

「な、やつぱり私の体が目当てか…仕方ない私の体を好きにして「
いえ、そういうのはいらないん」って、なんですか、まさかホモな
のかい?」

「ちびーよー」

ホモじやないけど寝首を捶いてくるであるひつ女を抱けるほど度胸も
性欲もないですよ?

美人なのは認めるけどそれに命を賭けるのはねえ?
とりあえず

「わうこうなんじやなくて、いひ、俺が迷宮に帰つてきたくなつ
な便利アイテムとか持つてないの?」

「じゃあ、コレを渡してやるよ、予め」の部屋を記憶してある

金髪ねーちゃんはクレジットカードみたいな物を差し出してきた。
見た目は変な文様の刻まれた鉄製のカードだ。

解析を掛けてみる。

【一地点転移のカード】 使用すると今の場所をカードに記憶して前に
記憶した場所に転移する。

一つの場所を行つたりきたりする事ができるので【一地点転移のカード】
といふ。
だそうな。

「…」これは、また便利そうなアイテムだな… それを使つたらそこから出れるんじゃないかな?」

「今ここので使つてもジョイルトラップビースト」と移動するだけだ、脱出はできないんだよ」

「じゃあ、試しに使つてみてくれないか? 転移先が溶岩とか壁の中とかに設定されてたら嫌だしな」

「すいぶん慎重だねえ、君が死んだら私は殺されるんだよ? そんな事はしないよ?」

用心に越した事はないと思つ。

金髪ねーちゃんがカードを使つとけりと右に動いた場所に【ジョイル・トラップ・ビースト】と転移した。
「うわ、嘘は言つてないよ!」

「カードを投げて寄越せ」

【ジョイル・トラップ・ビースト】にカードだけ通すように命令し、
「… と金髪ねーちゃんが投げてきたカードをキャッチする。

「それにしても、あんた、急に落ち着いてきたな 一体どうしたんだ?」

わざとまでと言動が変わつて来たような。

「よく考えたらもともとの迷宮に囚われているようなもんだし、待遇はそんな変わらないような気がするしねえ、それにもう十分長

く生きてこるし死ぬのは怖くないよ、退屈よつもね

「こいつは寂しかったのかもしれないな。

とはいって同情はできないな、こいつは勇者達を自分の快楽のためだけに殺していいわけだしな。

こいつを許すという選択肢を俺が取る事はない。

とりあえず行くとするか…。

俺はみすぼらじしい扉を開け魔法陣に乗り迷宮を脱出した。
脱出した後に気づいたんだが、この魔法陣がトラップって可能性もあつたよな？

それは置いといて！

青い空、白い雲！

シャバだ！シャバに出たぞー！

確かに近くに町があったよなー・まずはそこに行くぞー！

24話「まい（後書き）

迷宮探索編終了！

次回から地方都市マロニー編へ突入だ！
金髪ねーちゃんは放置だ！

さてさて、もう数十年も前になる記憶を頼りに町のあつた場所に来て見た。

大分様変わりしてゐるが、たぶん此処が以前の町なんだと思つ。

まず、田に付く大きな変化は高さ10mほどの中石造りの壁でぐるーっと町を取り囲んでいるところかな？

あと、町にへと続く道に行列が出来てゐるところか…。

なんだか、門のところで検問のような事をしてゐるみたいだ。
前はこんなことしてなかつたんだけどな？

というか、そもそも町が壁で仕切られてなかつたし。
とりあえず、俺も行列に並ぶとするか。

しばらく並んでいると、俺の順番がきた。

どうやら通行税的なものを払わされる様だ。

後ろから観察していた結果、通貨は俺の持つてゐるものと変わらぬようだというのが解つた。

こいつは助かるな。

まあ、通貨が違かつたら別の場所から壁を登つて不法侵入するつもりだつたけど。

ちなみに俺の所持金は10京CRMくらいたつたりする。
全部放出したらものすごいインフレが起きるな、そんな事はしないけど。

前の人と同じく通行税を払つて通り過ぎようとしたところを門番のおっちゃんに呼び止められた。
なんか、ジロジロ見られている。

「ふーむ、黒い髪にこげ茶の瞳、そしてその肌の色…、ここいらあたりでは見ない風貌だな…、お前何処の出だ？」

「え？」

何処の出だと言わされたら俺は日本人でえーと、なんて答えたらいいんだ？

「何処から来たのか言えばいい、まさか自分が何処から来たのか答えられないわけあるまい？」

えーと、日本と言つたら東だよな、まあいやここはとりあえず東の方の出身だといつ事にしつつ…。

「ど、東方の出身です」

と、答えたといふ、門番のおっちゃんの表情がさらに厳しくなった。
あれ？俺なんかやつちやつた？

「東だと…ここから東は魔族の領域だぞ…お前、まさか魔族の間者か…？」

なつ、なぬーーー、これはびびりよう？

一旦逃げるか？でも顔を覚えられるしな【バラライズ・ミスト】
を使って麻痺させてから【トランス・ファイア】で記憶を飛ばすか？

いや、田撃者がこんだけいるとそれも難しいか？

とか、考えていると一人の大男が割って入ってきた。

身長は190cmくらい、がっしりした体躯で赤毛の髪は短く刈り込んである。

顔立ちはなんとなく愛嬌があり、体躯の割りに威圧感を感じさせない。

「まあまあ、門番さん落ち着いて、彼は僕と同じ南方のシャムセイの出身なんすよ」

といいつつ スッ と門番に何かを握らせる。

そして、じかにウインクをしてきた、助けてくれるのか？

とつあえず、ijiは乗つとくか。

「や、そなんですシャムセイ出身です、いやー俺って方向音痴なものでシャムセイから西に歩いてこむつもりで北にに来ちゃいましたよ」

たはは、と笑つて誤魔化してみる、これでいけるだろつか？

すると門番は手に握つているものを確認した後。

「つむ、間違えたのなら仕方ないな、お前達一通つていいやー。」

と、通してくれた、どうやらごまかせたらしい。

俺はそのまま赤髪の大男と連れだつて街中へと入つていった。

1話目つまとい 町に行ひつい（後書き）

魔法の説明

【パラライズ・ミスト】

吸い込むと麻痺する霧を発生させる魔法。

【トランス・ファイア】

炎の揺らめきを見せる事によって対象を催眠状態に陥らせる魔法。

とつあえず、お礼を言おつ

「さりきは助けてくれてありがとう、本当に助かった」

これに対して赤髪の男は

「どういたしまして、お礼はあの辺の酒場でご飯をおいしくくれればいいよ」

と、指で酒場をしめす、結構ちゃっかりしてた奴だ。
俺を助けるために賄賂まで使つてくれたみたいだし、おいらへんべり
全然いいんだけど…。

とつあえず、酒場に入つてテーブルに座る。
この酒場は一階がホールになつていて二階部分に個室があるみたい
だ。

なんだか冒険者の酒場つてかんじだ、ホールの部分は一階まで吹き
抜けになつている。

客層はいわゆる一般人が多いが鎧を着けてる奴とか冒険者っぽい人
間もちらほら見かけられる。

テーブルに腰掛けてると、ウェイトレス風味の女の子がメニューを
持つて来た。

どうやらこれは先払いらしい、お金を受け取つてから料理をするや
うな。

とりあえず感謝の意味もこめてメニューの中から高級そうなものを
選んでいく。

酒はいるか聞いてみたが、いらないといわれたのでジュースを頼む。ジュース一杯1000CRMって結構高いな、果物は高級品なのだろうか？

注文した品が来たので軽く乾杯をして食べる事にする、高いだけあつてうまい。

特にナッシュを使ったサラダと、お肉がとろりとなるまで煮込まれたシチューがいける。

「そういうえば自己紹介がまだだつたね、僕はロック、ロック＝クラークっていうんだ、よろしく！」

「俺はシロウ、シロウ＝キサラギだ」

「ああ、やっぱりその独特な名前はカグツチの人だね？」

「え？」

カグツチっていうのは地名か？察するに日本によく似た文化形態を持つ国のようだけど……。

「うん、僕は以前、海上都市フローティアにいた事もあるんだ、あそこは海上貿易の拠点だから色んな国の人と交流があつてね、カグツチからも交易に来ている人がいたから君の国のことはいくらか知つてゐるよ」

「へー」

俺はカグツチのことはまったく知らないが、俺の故郷は日本だしなー。

「確かにカグツチは東の方に行つたところにあるらしいっスけど、ここの人にとって東といったら魔族の領域の事を指すからつかつた事は言わないほうがいいよ、特に今はティフェンスライン砦を抜かれてピリピリしてるから」

なんというか、気になるフレーズがいくつも出てきたがここは合えてスルーしよう、カグツチとか超気になるが…後で調べてみるか。

「ありがとう気をつけるよ、それにしても何で俺を助けてくれたんだ？」

「ん？んー、カグツチ人は義理堅いって言つし助けておいたら将来得になるかなあなんて思つたんスけど」

「そ、そつか」

そういう事は本人に言わないほうがいいと思うんだが…。

「後はその装備のせいかな？」

「装備？」

「ミスリル製のブレストアーマーに、そのジャケット竜皮を使うツスよね？派手ではないけど所々に装飾が入つてるし、よく見ると超高級品だとわかるツス、これはもうお近づきになるしかないと思つたんスよ…」

な、なるほど、そういうれば何気に俺の装備つてめちゃくちゃ高級素材を使つているんだよな。

装備の事は考えてなかつたな、気をつけないとけないなあ。

まあ、そのおかげで助かったんだし結果オーライか。

ムシャリムシャリとサラダを食べつつロックが話しを続けていく。

「ところで君は何しにこの町に来たんだい？ 見たところ冒険者約うだけど」

迷宮を脱出したので近くの町に来たつていうと問題ありそうだな。うーん、理由ねえ？

「当てもなくフランフランとかな？ とりあえずモンスター退治とか仕事があれば適当にこなすつもりだったけど」

「そうすか、この辺は今や最前線で冒険者の仕事には事欠かないと思うしいいんじやないかな？」

「そういうロックは何しに来たんだい？ 同業者のように見えるけど」

ロックも見た感じは冒険者か傭兵に見える。

プレートメイルに身を包んだ筋肉質で大柄な体で実は商人なんですとかはないと思うけど。

たぶん傭兵かな？ 戦功上げて騎士に取り立ててもうつとかそんな感じだろうか？

「何しに来たつていうか僕はこここの住人なんだけど、まあ来たのはつい最近なんだけどね、実は僕は商人「ダウト―――つ！」なんなんスかいきなり？」

「その体格と装備で商人はないでしょう、どう見ても傭兵か冒険者だよね？」

「いや、確かに副業で冒険者をやつてたツスけど、僕はれっきとした商人だよ?」

「まじで?」

「まじまじツスよ、」の町にいい商店の出物があつたんで買つたんだ、これで僕も一国一城のあるじだーつ!って感じで」

「へー」

「そりだつ!特に宿とか決まってないなら僕の店に来ないかい?部屋は余つてゐから一部屋貸すつスよ、もちろんお金なんかとらないつス」

「えつ、いいのかい?」

「お安い御用ツスよ、(ぼそつ…あそこは一人で寝泊りすると危険だから護衛を雇つつもりだつたんだよね)」

「へ、何か言つた?」

「いやいや、何も?善は急げといつじ!」飯を食べ終わつたら早速案内するよ(ぼそつ…よし、タダで護衛ゲットだ)」

といつわけでも飯を食べ終わつた後にロックに連れられ店に行く事になった。

現在のシロウの装備

【小鳥丸レプリカ】

小鳥丸という刀を真似して作った刀、刃渡り75cm、刀身をオリハルコンで作つてあるので本物よりも強力。

シロウの手作り

【ブラックドラゴンジャケット】

ブラックドラゴンの皮を使って作ったジャケットで毒と炎に強い耐性がある。

ボタンや装飾部分にはブラックドラゴンの牙やウロコを使つていておしゃれ、下手な鎧より防御力がある。

シロウの手作り

【ミスリルブレストアーマー】

ミスリル製のブレストアーマー何気にオリハルコンを装飾に使つている。

ロックはオリハルコンを見たことが無かつたのでそこまで気がつかなかつた。

シロウの手作り。

【マジックグローブ】

魔法の発動体として使えるグローブ、炎に耐性がある。

シロウの手作り

【黄金蜘蛛糸の服】

黄金蜘蛛という蜘蛛の糸から作られた服、ものすごく軽い上に丈夫

でしかも肌触りがいい。

本来は金色に輝く色をしているが、シロウは黒く染めて使っている。
シロウの手作り

【ジーパン】

名前の通りのジーパン、内側に黄金蜘蛛糸製の布を張つて肌触りを
よくしている。
シロウの手作り

さて、ロックに連れられてお店に向かってるわけだが……だんだん周りが寂れてきたというか雰囲気がよくないというか、瓦礫の山が見えるというか、なんかスラムっぽいというか、廃墟と化していると、

「いかが？」

「ロック？ なんだか回りに瓦礫の山が見えたりするんだが？」

「はははははは

「つていうか、ここスラム街だよね？」

「ははははは

「こいつ、笑つて『まかすつもりだ！』
とはいえ、強く突つ込むのもどうかと思つて、しうつがないのでつ

いていく事にする。

しばらく歩いてみると、とある場所でロックが立ち止まつ。

「さあ、ここが僕の城クラータ商店つですよ」

といつてきた。

目の前には看板だけはやけに立派な店というか、廃墟があつた。

「廃墟じゃねーか！」

「ははははは

「はつはつは じゃねー！」

「まあまあ、そういうわざに住めば都といつし、入ってみれば案外悪くないかもよ？」

いやでも、窓は全部ガラスがはまつてないし、少し崩れかけてるし、これはないだろー。

商店として成り立つてないよね？

「とつあえず中に入つてよ」

と、ロックは俺の抗議の視線をものともせずに強引に中へと連れ込んだ。

意外と中は綺麗にかたずいている。

というか、何も無い。

商店といつのに商品が一切無いのは問題ないのだろうか？

「ロック、商品が何も無いようだけど？」

「商品はこれから来る予定なんスよ」

「やうなのか？」

「うん、そつなんだよ、といあえず商品が来るまで僕はここで掃除でもしているつもりだけど、暇だつたら店内を好きに見て回つていいよ、今晚の寝床の確保も必要だと思つしね」

ふむ、確かにこの建物の様子だと今のつりに夜寝る場所を確保したいほうがよさそうだな。

とこつわけで店内を見て周り、よれやうな場所を探す事にする。

まずは今いる商業スペースだが、見た感じコンビニとカツフューを足して2で割つたような感じになつていて、

真ん中辺に俺の胸元あたりまでの高さの陳列棚がならんでいて、端っこにテーブルがいくつか置いてある。

陳列棚の高さが低いのはカウンターから店内を見渡せるようにするための配慮だろう。

ここは俺の知つてゐるコンビニと違つて監視カメラとか無いわけだしな…まあ、似たような魔道具はあるかもしけないけど、魔道具は総じて高級品だしねえ。

さらに店舗部分は二階まで吹き抜けになつていて、
基本的な構造はさつきの酒場に似ているような気がする。
同じ人が設計したのかもしねえ。

続いてカウンターの中を見てみる。

スペース的にはかなり広い、コンビニのカウンターの3倍くらいは広いと思う。

2~3人くらいなら余裕で動き回れそうだ。

たぶん此処では調理もできるようになつてゐるんだろう、カツフューのよさなスペースで食べる飲食物を作るためのスペースだと思う。調理器具の類は置いてないが、流し台とかあるから間違いないだろう。

カウンターに入つていくと奥の方に扉が見える。

どうやらここから居住スペースに行けるようだ、とりあえずロックに許可はもらつてるので中に入つてみることにする。

居住スペースを見て回った結果、商業スペースより居住スペースのほうがかなり広い事がわかつた。

全体の構造としては、この店は一階建てで地下室がある。

見た感じ地下室は商品などをしまう倉庫として使うっぽい。

一階はリビングにキッチン、風呂に洗い場と部屋が一つあった。

風呂は薪で暖めるタイプだ。

迷宮の時のように蛇口からお湯が出るところは無いようだ。

水は井戸から汲んでこないといけなさそうだ。

面倒だし風呂とか改造したいなあ。

二階は12畳ほどの部屋が8つもあった。

ドアが店舗側と居住側の両方についているのでこの部屋を通って店舗スペースと居住スペースを行き来できる。

もしかしたら宿屋として使われたのかもしれない。

…いや、寧ろ、この構造は娼館っぽい気がする、まあ、深く考えるのはよそう。

んで、居住スペースから外に出てみるとそこには結構大きな庭がつた。

赤茶けた土にちょぼちょぼ雑草が生えている。

普通に畠として使えそうだ、家庭菜園なんかしてもいいかもしけない、ロックの許可は要るだろうが。

庭の片隅にはちつさい小屋が建っている。

入ってみるとトイレだった、しかもボットン便所だ。

後で水洗トイレに改造してしまおう。

とりあえず、一通り見て回ったのでロックのところに戻るところ。

「ロック、とりあえず2階の部屋を貸してくれー」

といいつつ店舗スペースに戻つてみるとロックはまだ掃除をしていた。

「うさ、じゅじゅ、好きに使ひへれていこよ

と、一旦、掃除の手をとめて答えてくれる。

「それにしても、家具とか生活用品がまったく無かったけど今までどうやって暮らしてたんだ?」

「今まで宿を取つていたんスよ、でも今日から商品とかと一緒に生活用品が届くから、こちちに生活拠点を移す事にしたんだ」

「もしかして俺に家具の配置を手伝わせようとしてる?」

「うん、手伝ってくれると嬉しいかな? ボソッ(メインはそっちじゃないんだけどね)」

「まあ、手伝ひのまいいんだけど、商品は何時来るの?」

「えーと、確か、もうそろそろ来る頃合だと思つんだが…、おつ、来た見たいっスね」

と、ロックの視線の先を見てみると何かがものすごいスピードでこちちに向かってきている。

それも、土ぼこつを上げつつ、ドア、ドアと凄い音をたてながら。

キキーッと急ブレーキをかけながら一人の少女が田の前に止まつた。

「お待たせしたっすう、トムキャット配達サービスっすう」

…語尾がロツクと被つてゐる。

ショートカットの藍色の髪にくりくりとした大きな瞳、なんとなーく猫っぽい、それも人懐っこいアメリカンショートヘアを彷彿とさせる。

服装はTシャツ短パン、ハイヒールでショルダーバックを引っさげている。

語尾は変だがすうに美少女だと思ひ。

「クラータ商店さんで間違いないっすか？」

「うん、待っていたよ、商品は何処かな？見たところ鞄ひとつで来たようだけど」

「商品なうにあります、今だすっすう！」

とショルダーバッグから色々なものを出してくる。
筆筒やらベッドやら調理器具のほかには商品だとおもわれる剣とか鎧とか。

「おおうーもしかしてそれ、無限の収納バッグっスか？いいなあー

「惜しいっすう、これはアイテムが百個まで入る100限の収納バッグっすう」

「それでもレアアイテムじゃないか、僕もほしいとは思つてゐるんだけど収納バッグ系のマジックアイテムって高いんだよね、しかもなかなか売つてないし」

「収納バッグは冒険者や商人にとつては垂涎のアイテムつすからねえ、出物があつてもすぐ売れちゃうみたいつすう、オイラのバッグは会社の備品つすけど、うちの社長も手に入れるのは苦労したつて言つてたつすう、あ、品物の確認が終わつたらサインをお願いするつすう」

ロックが品物の確認した後に少女の出してきた紙にサインをする。少女はサインを受け取つた後に。

「それでは、またのじ利用お待ちしますつすう

と言つて一礼し、来た道をわざと同じよひに物凄いスピードで走つていつた。

その後、俺はロックと一緒に家具や商品を店に運び込んだ。商品はとつあえず、倉庫にしまつておいた。

家具の配置などをしていたら外はすっかり暗くなつていた。

宅配サービスの少女の口調をサイコロで決めた結果こんな感じになりました。

さて、日も落ちてきたし腹も減ったので晩飯にしようとした事で、ロックが簡単な料理を作ってくれた。

ニンニクと玉ねぎと挽き肉を鍋でいためてそのまま水を入れて煮込む。

そこに白ワインをくわえて、適当に切った野菜をぶつ込み、塩と胡椒で味を整えればできあがり。

かなり大雑把なスープだが飲んでみた感じ、味は悪くなかった。パンは初めてダンジョンで口にした固いパンそつくりの物だったが、スープに浸せば柔らかくなり、そこそこおいしく食べた。

食事をしながらロックは何でこんなところに店をだしたのか、経緯を話してくれた。

なんでも、この一角は魔族の襲撃を受けた所為でスラム化してしまつたらしい。

ディフェンスライン皆が魔族に抜かれた後に急ピッチで町の外に城壁が作られたが、なにせ急な作業だった所為か一部壁のもろい場所があつた。

それがこの一角の壁で、運悪く、魔族の軍勢に攻撃され町の中まで侵入されてしまった。

それによりこの区画は蹂躪され、なんとか撃退したものの町は半壊状態、しかも魔族の襲撃に備えなければならず復興を後回しにした結果、今に至ると…。

んで、ロックの商店は再開発の第一歩となる予定だそうだ。店舗や商業権を安く譲る代わりに町に活気を戻してね、という事らしい。

「おかげでこの駅で店を持てたわけだし、僕とひとてほラッキーだつたスけどね」

「へえー、…ん? もしかして、」
「…ひいて治安悪い? 夜に襲撃受けたりして?」

「へっはっは、あ、おなかも一杯になつたことだしそうひんよ
うか!」

「」・・か・す・な! 聞いてなげそんな話じー。」

「大丈夫スよ、何かあつたらすぐ起こしに行へからー。あ、武器は
すぐに行へ取れる場所に置いといてね?」

「襲撃されるの前提じやないか!」

とつあえず抗議をしてみたが、なんだかんだと言つてあられて部
屋へと追いやられてしまった。

今から宿を取りに行くなんて無理だうし仕方ないか…。」

とつあえず、部屋は好きに使つていいといわれてるの、【無限
ポーチ】からベッドや箪笥を出して、窓には鍊金術を使ってガラスを
嵌める。

ロックが用意してくれた寝具は【無限のポーチ】にしまつて置く、
俺の手持ちの寝具のほうが寝心地いいからな。

やつぱ、ベッドのマットレスにはスプリングが入つてないと。
よし、今日ももう寝るか! 」

夜中に起き起こしごつねがするけどなー。

「ノンノンシコンコンシ

扉を叩く音が聞こえる。

うん、予想通り来たか…。

とりあえず、ベッドから這い出す。

がちゃつと扉を開けるとそこには完全武装のロックがいた。

「ほんと夜中になんの用だい？」

「いやあー、ビーナスアーバンが来た見たいなんスよねー

お金を払わずに商品を持っていく客が来たわけですね、わかります。

「数は？」

「探知トラップに引っかかったのは5人だね、裏庭から侵入してきましたみたいだよ」

とりあえず階段を下りて、ロックと一緒に勝手口に行き外をうかがつてみる。

真っ暗で何も見えない。

【盗賊の才能】のおかげで夜田は利くほうだがさすがに真っ暗だと何も見えん。

「ロック、ライトボールを使つけどいいかい？」

「それは助かるよ、よろしく」

【ライトボール】とは文字通り光る玉を出す魔法だ。
こいつを2、3個出して【フローント】の魔法を使って空に浮かべる。

【フローント】は対象物を空に浮かべる魔法だ、生物にもかかる。
とりあえずこれで大分明るくなつた。

物陰に5人程隠れているのが見える。

イキナリ明るくなつて動搖しているようだ。

レベルは下から順に、14、15、16、17、18、だ。

大して強くはない。

それに対してもこちらの戦力は…

| | NAME | ロック |
|-------|-------|-----|
| L V | 4 1 | |
| H P | 3 7 6 | |
| M P | 1 9 3 | |
| S T | 3 1 5 | |
| S T R | 3 7 5 | |
| V I T | 4 9 7 | |
| D E X | 1 5 4 | |
| A G I | 1 3 1 | |
| I N T | 1 9 6 | |
| R E S | 1 9 3 | |

ゴーレムみたいなステータスをしている。

門番とか衛兵の平均LVが25だったからロックはかなり強いと思う。

ステータスも全体的に高いし。

とつあえず、今夜のお密さんを相手にするなら余裕だひつ。

「「じやあ、侵入者の排除はよろしく」「

被つた。

「ちよつ、俺、今、ライトボールを使って活躍したじゃないか、今度はロジックの出番でしょ？」「

「僕は店主として店を守らないうといけない、だから店で待機をするよ、お密さんの相手は君に頼むっス」

「店を守るなら外の侵入者を倒しなよ、それとお密さんの相手は店主の役目でしょ」

「僕は最後の砦なんですよ、だから今夜のお密は君に任すよ、何事も経験だレッジトライ！」

「レッジトライ…じゃねえー！俺、今、鎧を着てないんだよ、行け、フル装備！」「

「なら、なおさら大事な店を任すわけにはいかないですよ

くうへ、ああいえば」「ううへ。

面倒くさがりやがつてー。

はあ、面倒くさいけどじょうがないか。
いっしょやつたるか！

一宿一飯の恩義もあるしなー！

侵入者は警戒しながらも一塊になつて歩いてくる。

一塊になつてゐるなり、【パラライズ・ミスト】で一網打尽だな。

「顕現せよー・パラライズミスト！」

と、魔法を使うと、なんだかぴりぴりしてゐるような霧が、もわんつと侵入者達の前に広がつた。

そのまま霧を吸い込んでしまつた侵入者達は一人残らず麻痺つてダウンしてしまつた。

せめて散開していればねえー。

「おー、凄いじゃないつスか、とりあえず縛つて一階の部屋に入れて明日衛兵につきだそう」

どこからか、ロープを取り出したロックと共に麻痺した奴等を縛つていいく。

ほつとくと麻痺は解除されちやうからね。

縛つた五人組はよく見ると10代の少年達だった。

魔族の襲撃を受けた時に親を失い、食い詰めてこんな事をするようになつたのかねえ、嫌な話だ。

「やういや、衛兵に突き出した後つてこつらビツなるの?..」

「たぶん下水道工事とか、キツイ汚い危険が三拍子そろつた作業を強制的にやらされことになると思ひ、じょりく姿塗にせ出でこれないよ」

なるほどねえ、この世界技術レベルは低そうだし下水道工事とかつて命がけの仕事になるんだろうなあ。

とりあえず、縛つたやつ等は一階のロックの隣の部屋に放りこんで

【スリープ・クラウド】の魔法を使つて眠つてもらつた。
つるさくされるとひきこむ。

その日は再度侵入してくる者はいなかつた。

4. 話題まとめ アウトロー（後書き）

なんだかつまく話しがまとまらず更新まで間が空いてしまいました。

次の投稿も時間がかかりそうです。

楽しみしてくれている方には申し訳ないです = (-_-) =

5話「まこと」やられたら返す

「ロック！一晩考えたんだけど、捕まえた5人組を衛兵に引き渡すのやめようぜ！」

「こきなり、何いってんスか？」

「ここのまま、ここからを衛兵に引き渡すよりいい使い道があるのでよ」

「具体的に言うと？」

「あいつらにこの辺を支配しているボスの居場所を吐かせて、ボスを襲撃、後は懐柔するなり、脅すなりして店に手を出させないようにする、毎晩襲撃されたらたまんないからなあ」

「そんなにうまく行くつかねえ？」

「どうあえずやってみよう」

「どうわけで、昨日捕まえた5人組の前にやつて来た。

「今日は君達にナイスな提案を持つてきた！協力してくれたら解放してあげるよ！なに、難しいことじゃない、俺らは君達の持つている情報が少しほしいだけだ」

と言つてみたところ。

捕虜の一人、リーダー格の「V-18の奴がこちらを讶しげに見ながら答えた。

「本当に解放していただけるんやですか？」

「嘘は言わないよ？」

「解放していただけるなら、あっしらに解る事ならいくらでも話しが
やすが…」

と、いうわけで尋問？はスマーズに進んだ。

さて、聞いた話をまとめると彼らはカフタスといふこのスラム街では一番の勢力を持つ不良集団の一員だそうだ。構成員は300人程、ボスの名前はカフタス、要はカフタスと言う奴の作ったグループという事だな。

不良集団はこのスラムにカフタス以外にも10グループ以上あつて各地域に縄張りを持つていて。

収入源は窃盗、売春、拾つたゴミの中から使えそうな物を売る。比較的中心街に近いこの場所は実入りがいいらしく、不良集団の中でも最大勢力が縄張りを持つ事になつたらしい。

5人組はカフタスグループの中では下っ端で候代わりに此処へ派遣されたらしい。

普段はゴミを拾つて売るくらいしかしてないので荒事は苦手だし、襲撃がうまくいってもどうせ上がりは取りあげられるから様子だけみてさっさと帰る予定だったそつな。

でもあつさり見つかって、俺の【ライトボール】で照らされて慌てているところをパラミスで一網打灰にされてしまったというわけだ。

最後に襲撃をかますからボスの居場所を教えるといった所。

「あつしらは所詮下つ端、使い捨てにされる『//』であ、今までに受けてきた仕打ちを考えりやあボスに対する義理もござこやせん、よびやんす、あつしらがアジトまで案内しまわあ」

ところわけで、アジトまで案内してもらひえむことになつた。

さて、不良集団のアジトを襲撃するにあたつて氣をつければならぬい事がある。

それは極力、人死にを出さない事だ。

というのも、俺らの目的はうちの店に手を出すな！－という交渉をする事であつて彼らの殲滅が目的ではないからだ。

脅しをかけるが殲滅はしない。

彼らを殲滅しても別のところから不良集団が流れてくるだけだからね。

グループカフタスにはこの地域を維持してもらわないと困る。

ロックは冒険者として荒事にも慣れてるし、手加減して攻撃するのも問題ないそうだが、俺のほうは迷宮で見敵必殺で戦つてたんで手加減なんて器用な真似はできない。

パラミス主体で戦つつもりだが、ステータスが高すぎると近づいてきた敵を咄嗟に殴つて殺しちゃうとか普通にありそつだ。

ところ訳で、秘密兵器その1とその2を使う事にする。

まずは秘密兵器その1【リビング・ブルーム】日本語にすると生きてるほうきつてところか。

これは某人気RPGのアイテムを参考に俺が作ったオリジナルアイテムで、言つなればほうきの形をした「ゴーレムだ。

作り方は【ウッド・ゴーレム】を作成するときに使う【魔法樹の木片】を使ってほうきを作り、それに【クリエイト・ゴーレム】の魔

法をかければ出来上がり。

【魔法樹の木片】の効力を失わずにほつきを作るのがちょっと難しいかな。

俺の周囲に4本ほど配置して、近づいた敵をバシバシ叩く予定だ。非殺傷兵器だがあたるとかなり痛いぜ？

次は秘密兵器その2【リビング・ロープ】こいつも作り方は【リビング・ブルーム】と一緒に【魔法樹の木片】でロープを作り【クリエイト・ゴーレム】の魔法をかけるだけ。

こいつで無力化した奴を順次縛つしていくつもりだ、たぶん大量に縛らなければならぬし、いちいち手作業ではやつてられない。

ちなみにロックが【リビング・ロープ】にかなり興味をしめしていた。

「これ、店に置いたら売れそうっスねー、僕に売ってくれないスか？」

「いいけど、卸値は一本1万5千CRMになるよ？材料費が高いから

と、言つたら。

「一本1万5千CRMなら売値は3万で？売れるか？僕なら買わなければ、懐のあつたかい冒険者なら…（ぶつぶつ）」

と、ぶつぶつ言いながら長考モードに入ってしまった。

ロックがなにやらぶつぶつ言つてる状態だが、とりあえず襲撃の準備は整つた。

さて、反撃開始といえますか！

6話 まつぽい 突つ込む

「カフタス（不良集団のボス）sideより
ちつ、気にいらねえな。
目の前の机に蹴りを入れる。

ガタンッ！と大きな音がしたのに驚き、傍に待っている部下がビクツと肩を震わす。

「斥候に出した5人組は、まあ、だ、帰らねえのか？」

「ハッ、い、今だ、帰還してないようです」

「ちつ、衛兵に突き出された様子は？」

「それも、報告がありません」

「ちつ…」

ドガシャーン！再度目の前の机に蹴りを入れる。
気にいらねえ、気にいらねえな！

失敗して捕まつたのならかまなわえ、だが、うまくいったのに報告
がねえなら裏切つたと見ていい。

クソが…「ミミ拾い程度しか出来ねえ無能が俺に楯突たてつこうとしている
のか？舐めやがつて。
甘やかしすぎたか？

炙り出すのは面倒だが、裏切つたのなら肅清しねえとな、弱いくせ

に手間を掛けさせやがつて。

あいつらぜつてえ殺す！見せしめも兼ねて派手に殺さねとなあ！と、クズ共の処刑方法を考えていると突如

ド「オオオオオオーン！ といつ凄まじい爆発音が聞こえてきた。

！――！

なつ、なんだ今の音は！？

バタバタバタッ！

部下が駆けつけてきた。

「た、大変です、ボス！、て、敵襲です！」

「なにい？敵襲だあ？ビ」のチームが攻めてきやがった！？」

「それが、例の5人組が裏切ったようだ……」

「ああ！？あいつらか…、だつたら、さつきとつぶせ

「いえ、それが滅法強い助つ人がいまして、しかも一人は魔術師です」

「魔術師だと…ちつ、仕方ねえ、俺が出てやる！敵はビ」だ！」

「い、今は、中庭の辺りにいます！」

魔術師か…めんどうな、さつきの爆発音はそいつか？ まあ、あんな音を出すほどの魔法を使つたんだ、MPはほとんど残つてねえだろ。

どんな奴らか知らねえがしょくのこの俺に勝てる奴なんざいねえ、ぶつ殺してやる！

愛用のショートソードを取り、中庭に駆けつけた俺が見た光景は、信じられないような物だった。

赤髪の大柄な男が手にしたハルバートを振るう度に俺の部下が吹っ飛ばされている。

それも信じ難い光景だつたが、もうひとりの男が周囲に4本のぼうき？を浮かべて部下達をしばき倒しているほうが信じられねえ。何だこいつは！？あんな魔法は見たことも聞いたこともねえぞ！？クソが！正攻法じゃ無理かあ？ん？あの五人組は隙だらけだな…。

「シロウ side 」ちょっと時間を遡つて開始。

さて、下つ端5人組に案内されてやつてきました敵のアジト。どうやら元は貴族の屋敷だつたみたいで無駄に広い、まあ、ここも崩れかけているんだけど…。

んで、裏口からこそこそと進入して、ボスをキュっと絞めるつもりだつたんだけど、あつさり見つかつてしましましたとさ。

「ん？こんなところで何をしている…つて、ほつきが浮いてる…？なつ、なんだ貴様はつ、グハッ！」

といった感じで。

まあ、ロックは歩くとガチャガチャ音がする重鎧装備だし、俺も潜

入ミッショソに慣れてるわけじやないしょうがないよねえ。

というか、俺のほうきがなければこまかせてたような氣もするが小さなことはキニシナイキニシナイ。

さて、見つかってしまったのはいいんだけど、敵があとからあとから出てくるのがめんどい。

ロックの武器はハルバートだし、俺の魔法も狭い所だと戦いにくい。広いところにでるか。

「顕現せよーフレイムアローー！」

ドゴオオオオオーン！

「よし、壁を壊したからここから出るよー！」

「シロウ……、君は無茶苦茶するつスねえ」

「…もはや、あつしらひついて行くだけでああ」

とつあえず、壁を壊して敵の方位を突破し、広い場所を探すことにした。

しばらく走っているとおあつらえ向きの場所にでた。赤茶けた土がみえるし、大分荒れ果てているけど、ここは中庭かな？

広い場所に出れたロックは絶好調だ。

人をポンポン吹き飛ばして、ハルバートを振り回す度に、2、3

人程吹つ飛ぶ、人間て飛ぶんだなあ。

吹つ飛んだ後も生きてるみたいだから、一応手加減はしているようだ。

ロックを手強いと見て俺の方にきた奴らは即座にほうきにしばかれ

る。

ちなみに、道案内5人組は（。。。）ポカーンとした顔をしながらその光景を見つめているので戦力としては役に立っていない。

しばらくロックと一人で無双していたが、そろそろ飽きてきたなあ、これからどうしよう？

確か構成員は300人って言つてたから全部倒さないといけないのかな？とか考えていたら。

「動くな！これを見る！」

という声がひびいた。

見ると道案内の5人組のひとりが厳ついに一ちゃんに捕まつて首元にナイフを押し当てられていた。

厳ついに一ちゃんのLVは33だ。

ここでの構成員と比べて群を抜いてレベルが高いから、こいつがボスっぽい、解析を掛けてみるとステータスはこんな感じだった。

| | LV | 33 |
|-----|-----|----|
| HP | 251 | |
| MP | 173 | |
| ST | 211 | |
| STR | 253 | |
| VIT | 251 | |
| DEX | 171 | |
| AGI | 173 | |
| INT | 153 | |
| RES | 155 | |

うむ、中々強いな

まあ、それは置いといて。
どうしようかな？

とか考へているとロックが

「彼らは解放する条件で道案内を頼んだだけで、別に僕らの仲間つてわけじゃないスよ」

と言つて、武器を構えて突撃しようとした。
僕らつて事は、俺は仲間扱いなんだなあ、いやそれはどうでもいい
か。

とつあえず「じゃ…。

「ロック、ここは従おう」

「え？ なに言つてんスか？」

「いいから、いいから」

ロックに、俺に考えがあるぜえと田配せをしてみる。
とつあえず信用してくれたよつて止まつてくれる。

「武器を捨てろーー！」の魔術師は発動体もばずせーあと、その変な
ほうとも止めろーー！」

ロックは武器をガチャーン！と投げ捨て俺もほうきに送つてている魔
力を止める。

さらに【マジックグローブ】をはずして放り投げる。
ついでに服の袖をまくりあげ、手に何も持つてないことをアピール
する。

「これでいいかい？」

「あっしらのために…スイヤセン」

5人組のひとりが申し訳なさそうに言つ。

それに対し大丈夫だよと男前な笑顔を返してみる。

それを見た5人組は、あっしらはあっしらは、うおーんと男泣きを始めてしまつた。

いや、そんな感動の場面じゃないからね？

男前な笑顔はギャグだし、実は全然ピンチじゃないのよ？

さて人質をとつて俺たちに武装解除させたボスだが、部下に人質を預けて俺の方に近づいてきた。

んむ、偉そうに命令してくるからやつぱこいつがボスだな。

「なめた、真似してくれやがつたなあ！ああっ！？てめえは俺が殺す！」

とか、いいながらナイフで斬りかかってきた。

ええ？直接攻撃してくるの？武器持つてないとはいえ、まだ俺動けるんだよ？

俺なら、この状況だつたら部下に蛸殴りをさせるんだけどなあ。だつて仮にもボスの君が来たら。

「簡単に一発逆転出来てしまつじゃないか」

相手の攻撃を左に一步足を踏み出しかわし、そのまま自分側に巻き込むように回転しながら左拳で相手の右頬を殴る。

変形しているが左フックという奴だ。

ボス（笑）は俺の右後方へときりもみしながら吹つ飛んで行つた。

そして、すかさず無詠唱で準備していた【パラライズ・ミスト】を人質をとつているやつに発動させる。

【魔法の才能】を持つてゐる俺は発動体なしかつ無詠唱で魔法を使えるのだよ。

人質も巻き込んだじゃうけどじょうがないよね？

この魔法をくらうと長時間正座した後のようなびりびりを全身で味わう事になるんだよなあ。

と言う訳で、人質を取つてゐやつを無力化したわけだが、何故だか周りがシーンとしている。

「ほ、ボスが一撃で？」

「魔術師のくせに格闘もできるのか？」

「今、詠唱無しで魔法使わなかつたか？」

「無理だ、俺たちに勝てるわけが無い」

お？意氣消沈か？

今まで、味方がぽんぽん飛ばされても向かつて来るから、なんて戦意の高い奴らだと思つてたんだけど、ボスが怖かつたら降伏できなかつたとかかな？

とりあえず降伏勧告でもしておくれ。

「君らのボスは倒したけど、まだやるかい？」

と、にこやかに言つたところ、一人、二人と、武器を捨てて降参のポーズをとつていき、最後は全員降参した。
さて、不良グループの武装解除が済んだわけだが、戦後の処理はどうするべか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8585x/>

異世界トリップっぽい

2011年12月25日12時01分発行